

令和7年度

事業報告書

社会福祉法人

西予総合福祉会

事業報告

急速に進行する人口減少及び出生数の低下は、法人事業にも大きな影響を及ぼしている。とりわけ、保育園事業における園児数の減少や、福祉事業における慢性的な人材不足が顕著である。加えて、物価高騰等の影響も重なり、法人経営はこれまでにない厳しさを増している。かかる状況下にあっても、法人は地域における役割を果たすべく、諸課題に取り組んできた。

まず、老人事業部においては、利用者の生活環境の改善を目的として、老朽化したあけはま荘の大規模修繕工事を実施した。市の社会福祉法人助成金を活用し、屋上防水、空調設備更新、トイレ改修等を1月末までに完了した。また松葉寮では介護基盤整備事業費等補助金により、ベッド上の利用者の睡眠状態や体動を非接触でリアルタイムにモニタリングできる介護・見守りシステムを全ベッドに導入した。これにより、利用者の体調管理はもとより、職員の夜間帯等における業務負担の軽減および見守りの効率化が図られている。更に、給食業務の見直しを行い、松葉寮を給食工場としてセントラル化し、クックフリーズ方式による調理品を特養4か所およびケアハウス2か所へ配送し、サテライト施設で加熱・提供する体制について、来年度の実施に向け人員確保および改修工事を進めた。加えて、養護老人ホーム三楽園については、本年度より定員50名のうち20名を特定施設入居者生活介護へ移行し、円滑な運営がなされている。なお、旧園舎の解体については、アスベスト調査を実施し、来年度中の解体工事実施に向け関係機関と協議を進めている。

次に、障がい事業部においては、松葉学園に隣接する約3,400㎡の用地を買収し、農地転用から土地取得に至る一連の手続き許可を得た。これを受けて、次年度に就労支援事業所いっとき館の事業拡張を図るべく、造成工事に着手する予定である。一方で、希望の森新築事業については国庫補助の申請を行っているものの、県内における他法人との競合もあり、採択は厳しい状況にある。しかしながら、今後も実現可能な方策を模索し、必要な対応を継続していく。

続いて、児童事業部においては、石城および多田の両保育園における園児数の減少に対応するため、事業継続の方策として分園化を検討し、保護者および地域関係者への説明を実施した。その結果、石城保育園は宇和保育園の分園とし、多田保育園は中川保育園の分園とすることを決定した。その過程において、分園での行事運営等について園児家族から貴重な意見が寄せられ、保護者および地域との双方向の意思疎通を重視した運営を行う方針を確認した。

さて、本年度における法人全体のサービス活動増減差額は2億4,500万円となり、前年度比で約1,800万円の減少となった。この主な要因としては、最低賃金改定に伴う全職員の賃金引き上げによる人件費の増加が挙げられる。一方で、正職員の離職率は全体で5.4%となり、目標である5%を上回った。特に老人事業部においては7.2%と高水準で推移しており、職員の定着は事業継続における重要な課題となっている。こうした状況を踏まえ、課題の解消と職員満足度の向上を図るためにも、経営基盤の一層の強化が不可欠である。

以上の課題を踏まえ、法人事業の持続的発展を図るため、前年度にコンサル業者を選定した。本年度は法人の課題を洗い出しながら、将来の方向性を示す「マスタープラン2040」を策定した。まず、本計画の目的について職員向け説明会を開催し周知を図った。次いで、計画遂行に向け法人本部機能の強化に着手した。具体的には、理事長の施設長兼務を解消し、法人業務に専念できる体制に変更した。更に経営企画課および人事課を新設し、それぞれに専任課長を配置して、機能強化を試みた。合わせて、事務局長とは別に法人本部長を選任し、経営企画課、人事課、デジタル推進課および事務局を統括する体制を構築した。

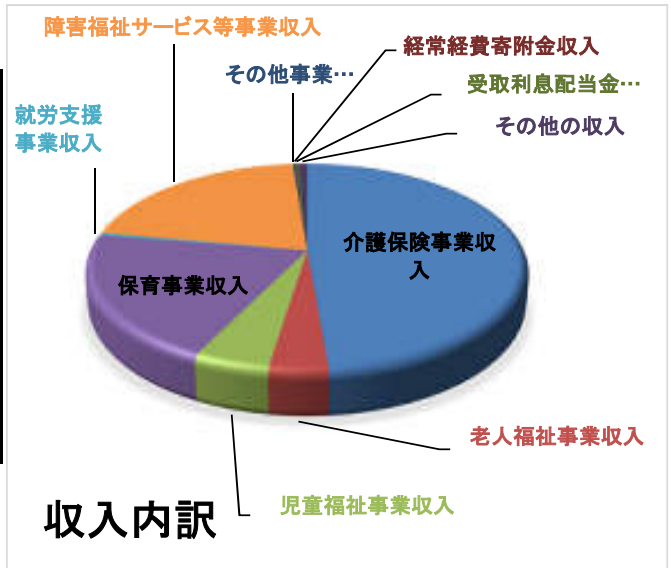
これにより、経営改革および人材確保・定着に取り組む基盤を確立し、次年度以降の計画実現に向けた本格的な歩みを開始することとなった。

I. 事業活動による収入・支出額

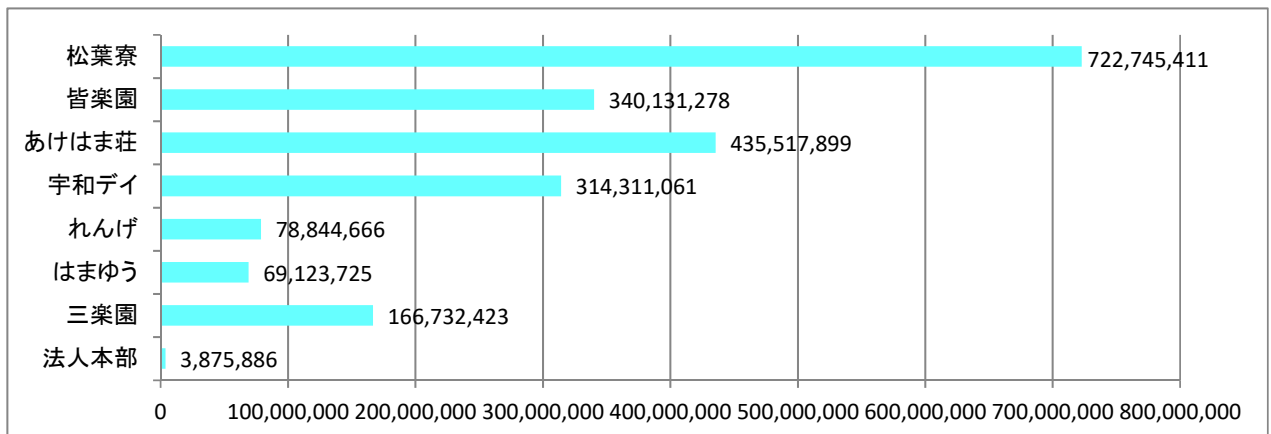
1. 事業活動による収入内訳

単位:円

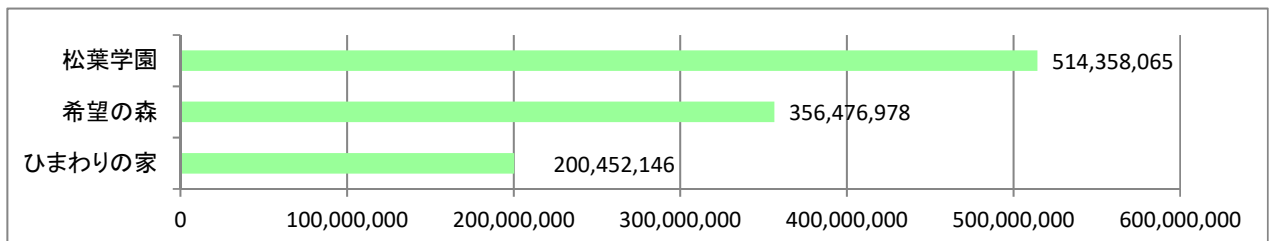
勘定科目	金額	率
介護保険事業収入	1,954,983,239	48.63%
老人福祉事業収入	153,167,042	3.81%
児童福祉事業収入	197,190,179	4.91%
保育事業収入	808,796,636	20.12%
就労支援事業収入	17,547,891	0.44%
障害福祉サービス等事業収入	838,280,149	20.85%
その他事業収入	8,003,084	0.20%
経常経費寄附金収入	2,689,125	0.07%
受取利息配当金収入	8,861,751	0.22%
その他の収入	30,382,264	0.76%
事業活動収入計	4,019,901,360	100.00%



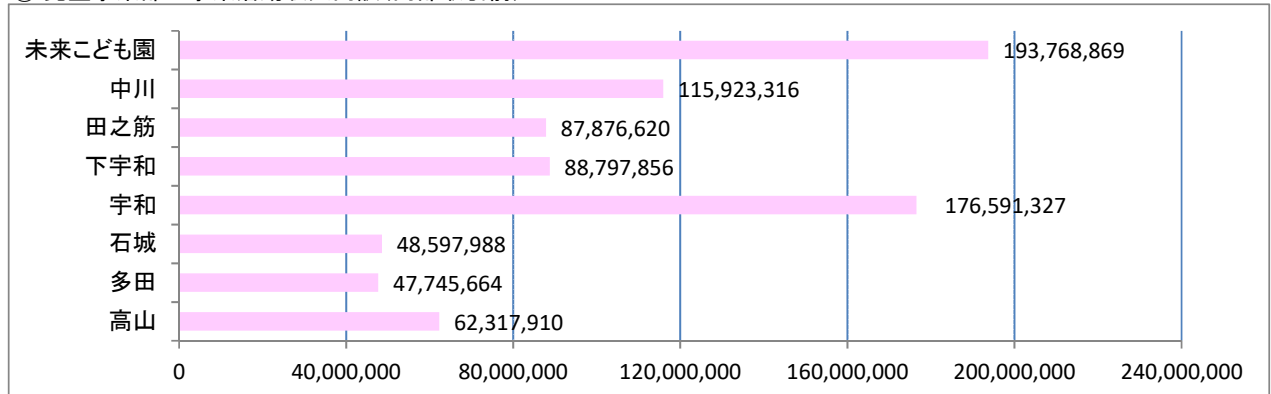
① 老人事業部・公益事業・法人本部の事業活動収入内訳(内部取引前)



② 養護・障がい事業部の事業活動収入内訳(内部取引前)



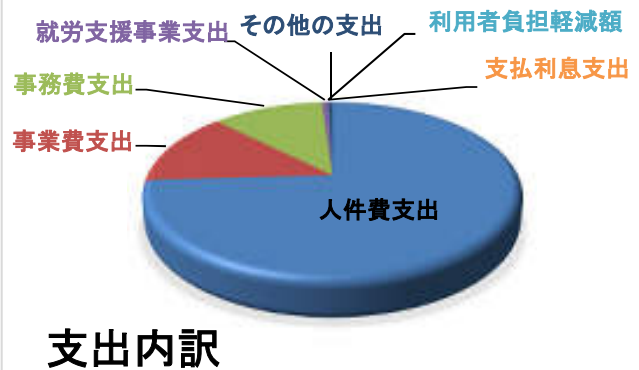
③ 児童事業部の事業活動収入内訳(内部取引前)



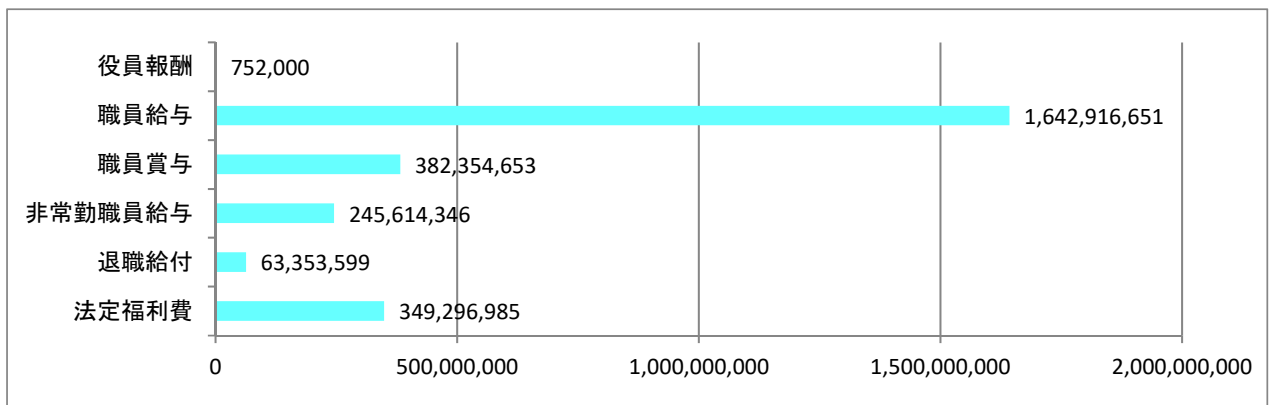
2. 事業活動による支出内訳

単位:円

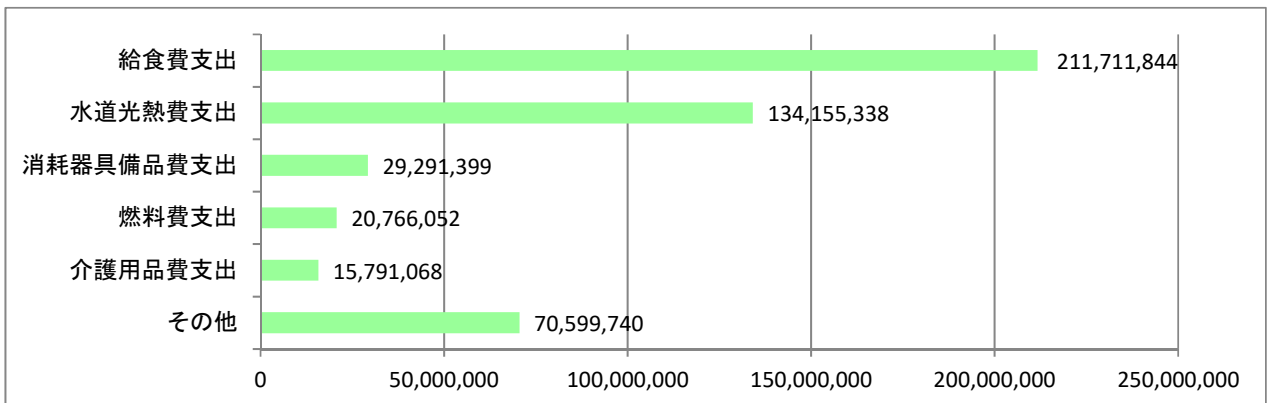
勘定科目	金額	率
人件費支出	2,684,288,234	74.16%
事業費支出	482,315,441	13.32%
事務費支出	414,385,314	11.45%
就労支援事業支出	22,243,183	0.61%
利用者負担軽減額	1,248,933	0.03%
支払利息支出	1,000,953	0.03%
その他の支出	14,157,262	0.39%
事業活動支出計	3,619,639,320	100.00%



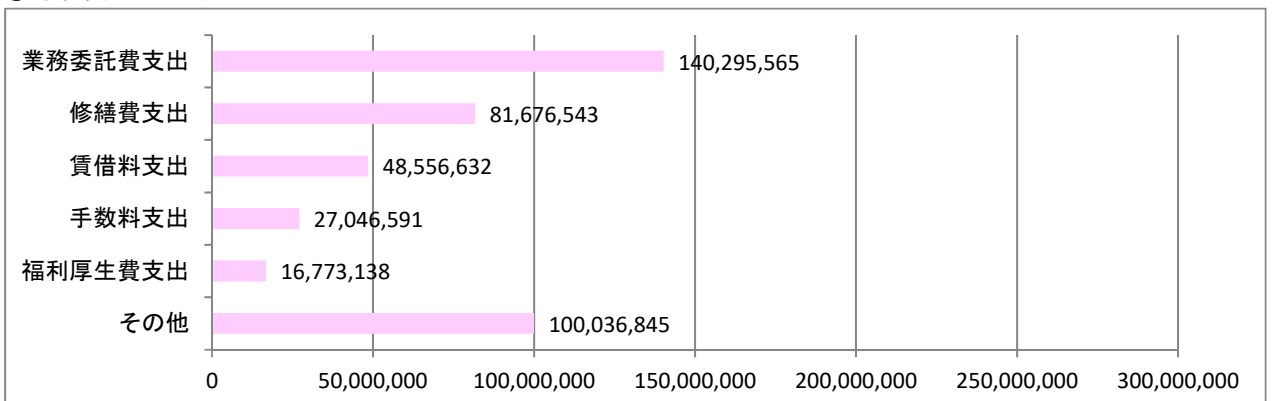
① 人件費支出の内訳



② 事業費支出の内訳

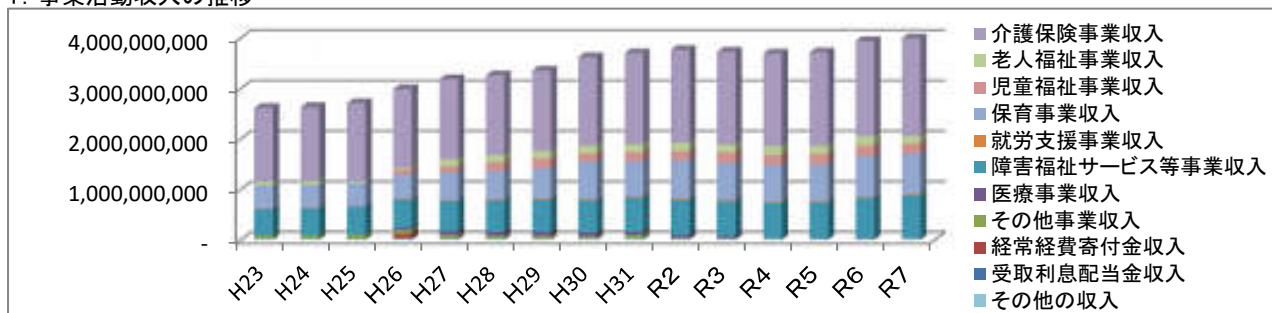


③ 事務費支出の内訳

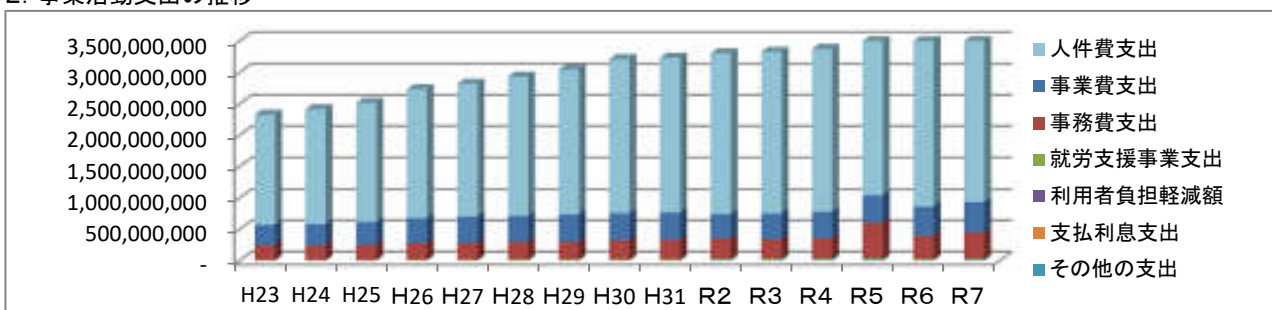


Ⅱ. 事業活動収支の推移(平成25年度より新会計基準適用 平成24年度以前は新基準に科目を振替て表示)

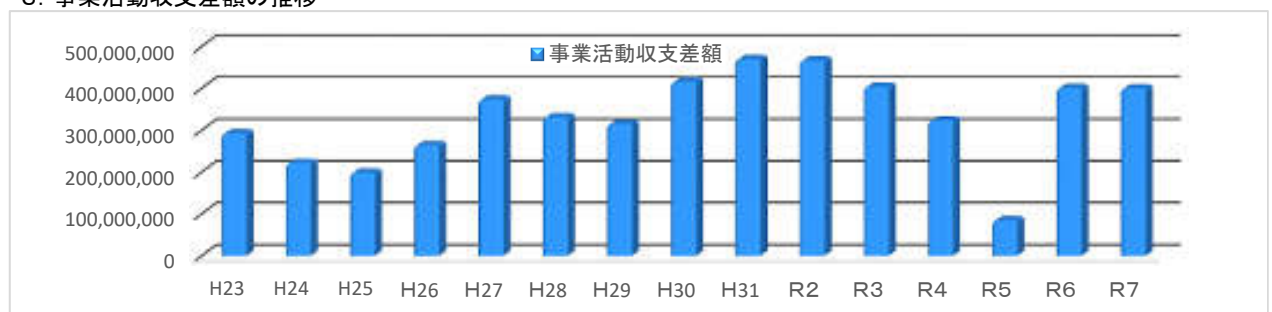
1. 事業活動収入の推移



2. 事業活動支出の推移



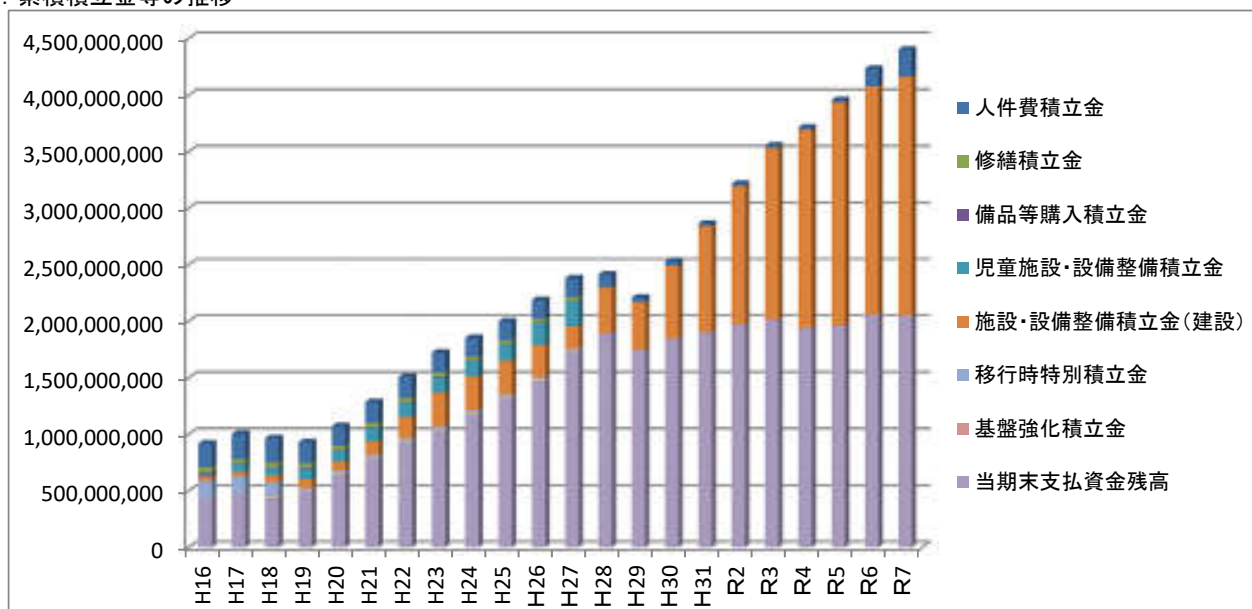
3. 事業活動収支差額の推移



勘定科目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業活動収支差額	403,952,269	323,546,590	84,826,110	401,148,585	400,262,040

Ⅲ. 積立金等の推移(※平成28年度より児童施設・設備整備積立金と建設積立金を統合し施設・設備整備積立金とする)

1. 累積積立金等の推移



勘定科目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
人件費積立金	20,790,000	20,790,000	20,790,000	155,240,000	239,890,000
修繕積立金					
備品等購入積立金					
児童施設・設備整備積立金					
施設・設備整備積立金(建設積立金)	1,518,220,219	1,749,865,219	1,973,820,219	2,019,920,219	2,109,520,219
移行時特別積立金					
基盤強化積立金					
福祉の里推進活動積立金					
工賃変動積立金					1,000,000
当期末支払資金残高	2,015,664,584	1,944,667,427	1,963,446,924	2,058,705,425	2,054,861,247
合計	3,554,674,803	3,715,322,646	3,958,057,143	4,233,865,644	4,405,271,466

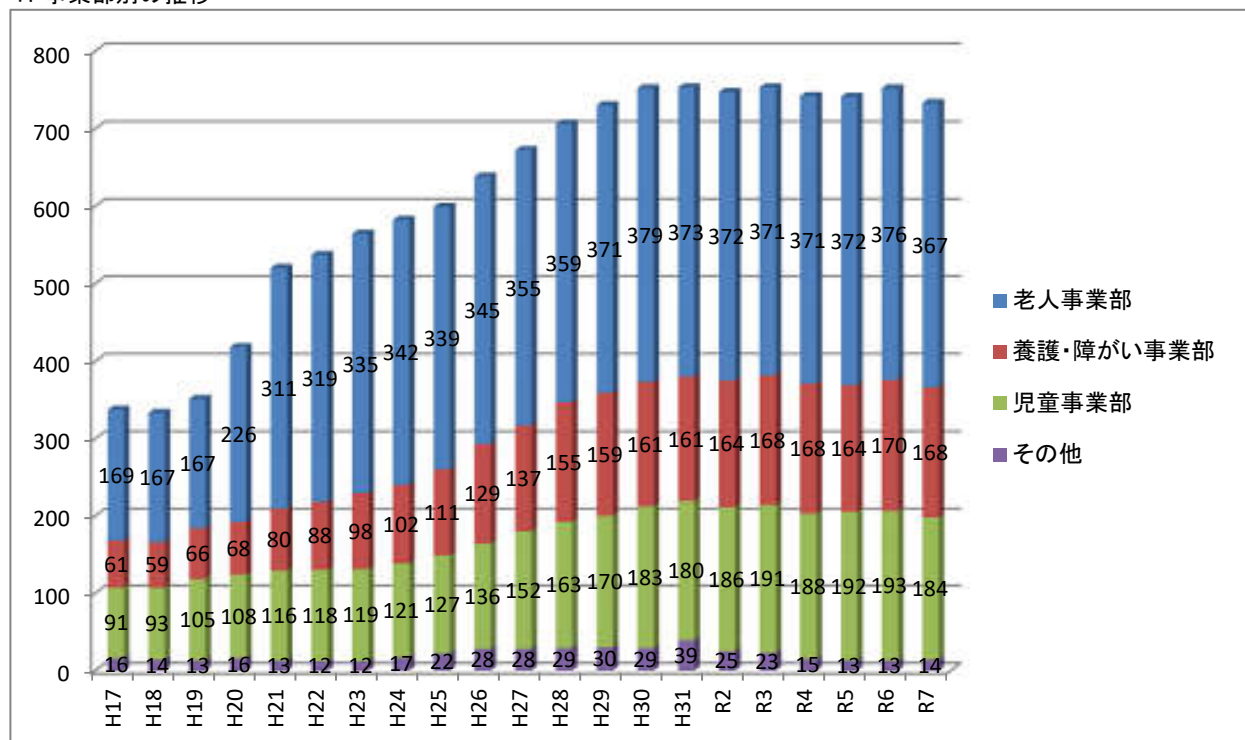
2. 当期資金差額の推移



勘定科目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
当期資金差額	337,209,659	160,647,843	242,734,497	275,722,592	171,405,822

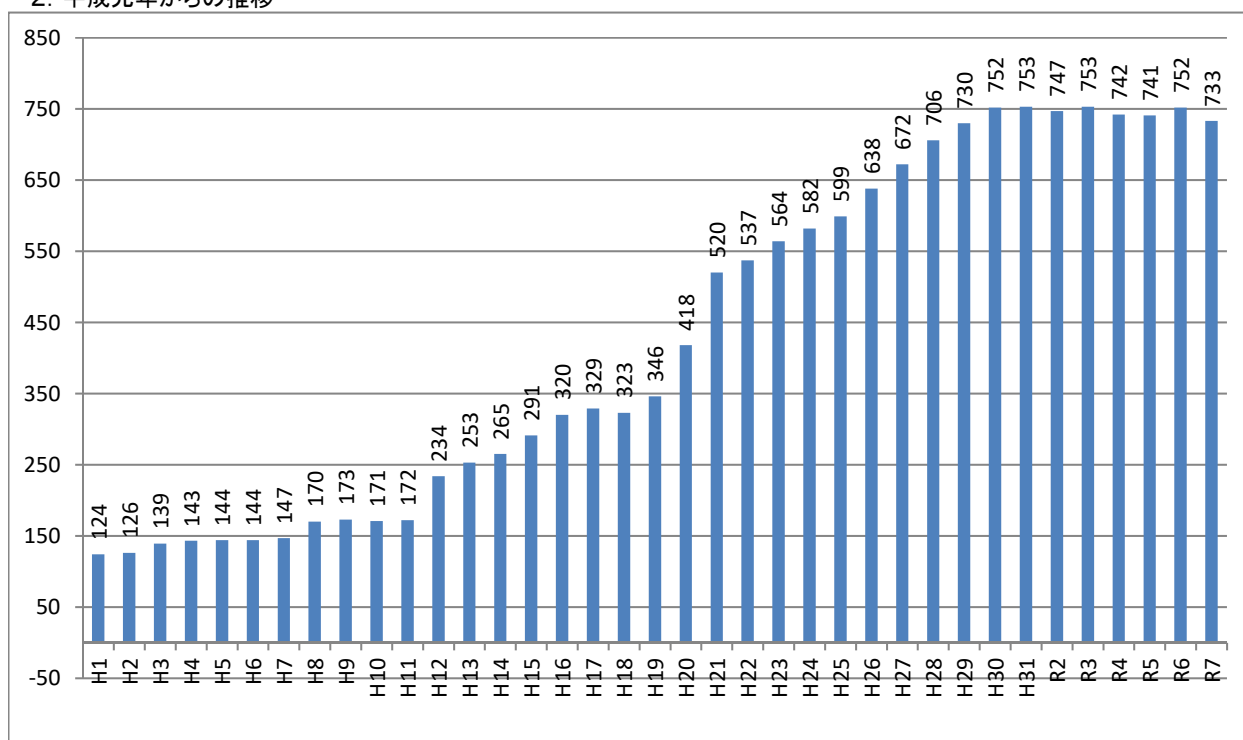
Ⅳ. 職員数の推移

1. 事業部別の推移



	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
老人事業部	372	371	371	372	376	367
養護・障がい事業部	164	168	168	164	170	168
児童事業部	186	191	188	192	193	184
事務局	25	23	15	13	13	14
合計	747	753	742	741	752	733

2. 平成元年からの推移



令和7年度：数値目標達成結果

(1) 定年退職者を除く正職員の離職率を5%以下とする。

目標	目標値	結果	R7	R6	R5
5%以下	5.0%以下	×	5.4%	6.9%	5.6%

(2) 労災保険対象事故の発生件数を前年度対比10%削減させる。

目標	目標値	結果	R7	R6	R5
前年比10%削減	13件以下	○	10	15	11

(3) 一人当たりの時間外労働を月平均5時間以下とする。

目標	目標値	結果	R7	R6	R5
月平均5h以下	5h以下	○	3.3h	3.4h	4.2h

(4) 法人が指定する資格の取得者を15人以上とする。

目標	目標値	結果	R7	R6	R5
15人以上	15人以上	×	8人	13人	15人

(5) ストレスチェック組織分析結果の健康リスクを95以下とする。

目標	目標値	結果	R7	R6	R5
90以下	90以下	○	85	86	96

(6) Instagram閲覧数を前年度対比10%増加させる。 ※前年度まではホームページ閲覧数

目標	目標値	結果	R7	R6	R5
前年比10%増加	66,340以上	○	約360,000	47,326	55,282

(7) 障がい者雇用率について法定雇用率(2.5%)を維持する。

目標	目標値	結果	R7	R6	R5
法定雇用率達成	2.50%以上	○	3.06%	3.53%	2.70%

(8) 経営数値：人件費率

目標	目標値	結果	R7	R6	R5
69%以下	69%以下	○	67.94%	68.60%	70.45%

(9) 経営数値：サービス活動増減差額比率

目標	目標値	結果	R7	R6	R5
6%以上	6%以上	○	6.18%	6.75%	5.02%

(10) 職員1人当たりサービス活動収益

目標	目標値	結果	R7	R6	R5
6,300,000円以上	6,300,000円以上	○	6,546,802円	6,306,410円	5,955,736円

(11) 職員1人当たりサービス活動収益

目標	目標値	結果	R7	R6	R5
4,250,000円以上	4,250,000円以上	○	4,447,262円	4,325,945円	4,195,675円

「法人決算概要」及び「施設別運営状況」は、別紙のとおり

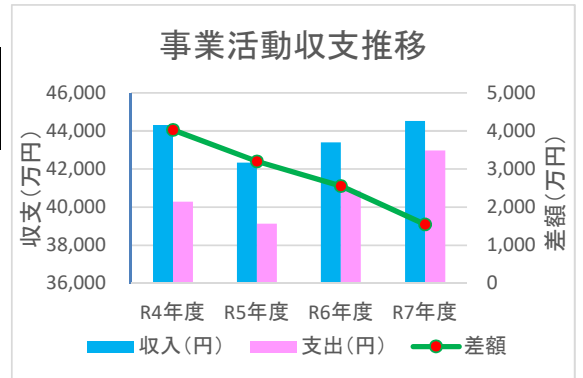
事業報告 : 松葉寮

事業活動収支推移

	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
収入(円)	443,179,379	423,291,719	434,078,487	445,252,065
支出(円)	402,877,615	391,263,097	408,521,670	429,774,428
差額	40,301,764	32,028,622	25,556,817	15,477,637

○状況

- ・入院延日数が、令和6年度834日であったが令和7年度は595日と減少、退所者数も令和6年度36名、令和7年度28名と少なく、入退所間の空床日数も減少した。
- ・短期入所は、延べ人数が令和6年度5,908名から6,041名と増加した。
- ・支出について、最低賃金の増、厨房自前調理移行に伴う修繕工事及び備品等により支出が増加した。



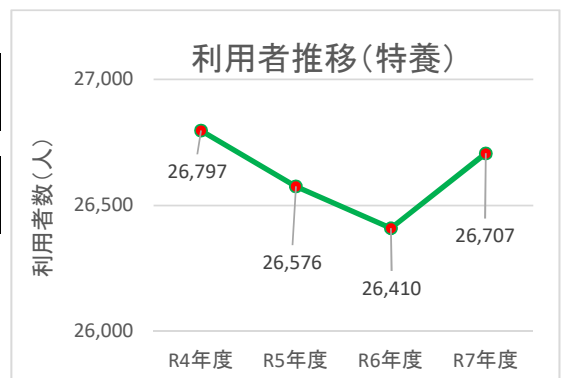
利用者推移

特 養	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用者(人)	26,797	26,576	26,410	26,707
前年比(%)	101.7%	99.2%	99.4%	101.1%

短 期	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用者(人)	5,529	6,502	5,908	6,041
前年比(%)	96.3%	117.6%	90.9%	102.3%

○状況

- ・広域(多床室)の稼働は令和6年度と変わらず97%、地域(個室)は96%から98%と増加した。
- ・短期は、16.1%から16.5%と微増した。特養入院時の、空床利用について、徐々にではあるが受け入れを行い、稼働増加を目指しているが、調整が上手くできていない。

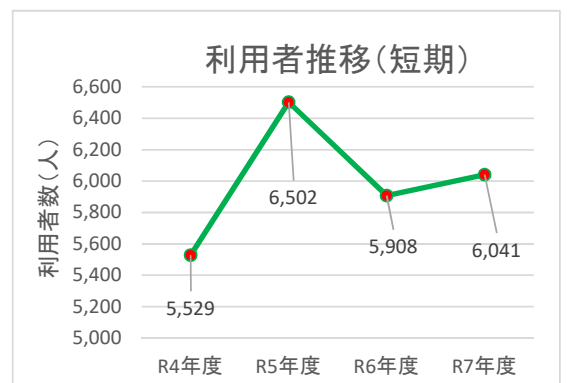


施設整備

- ・厨房改修工事
- ・ICTロボット(眠りスキャン・ヘルプパッド・インカム等)
- ・防犯カメラ設置
- ・非常用発電機メンテナンス
- ・介護用ベット3台

人材育成・研修

- ・施設内研修は、年間を通し基準で定められた研修及び訓練を行った。
- ・老施協四国及び全国大会参加



トピックス

- ・厨房業務を委託より、自前調理にしセントラル化し、法人内特養へ配送
- ・西予市介護基盤整備事業補助金を活用し、Wi-Fi工事及び、ICT機器等導入する。
- ・8月より宿直を廃止。
- ・入院時の居室代、おやつ代を10月より徴収。
- ・12月EPA介護福祉士候補生、インドネシア2名、フィリピン2名就労。

事業報告 : 開明の杜

事業活動収支推移

	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
収入(円)	247,608,087	252,081,183	273,292,959	277,493,346
支出(円)	231,147,748	231,147,748	245,283,054	252,956,935
差額	16,460,339	20,933,435	28,009,905	24,536,411

○状況

トータルで見ると、ほぼ前年度並みの数字が出ているが、人件費や修繕費、物価の高騰だけでなく、食事の自前提供に伴う機材の購入等もあり、思いうような活動収支の伸びには繋がらなかった。

・開明の杜: 平均要介護度4.5(前年比+0.3)。取得できるはずの加算算定が必要。

・短期入所: 職員一丸の受け入れ体制で稼働率は伸びた。平均要介護度2.9(前年比+0.1)

・居宅陽だまり: 安定運営だが、まだまだ経営努力が可能。西予市包括支援センターへ訪問も行ったが、新規紹介件数は微増した程度。意識を高く持ち対応していきたい。

・ヘルパーステーション: 実働できる職員が少なく大幅減。今後の事業の方向性も含め検討が必要。

人件費積立金 : 2,250,000円

利用者推移

特 養	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用者(人)	10,168	10,384	10,272	10,404
前年比(%)	99.8%	102.1%	98.9%	101.3%

短 期	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用者(人)	3,155	3,281	3,358	3,509
前年比(%)	97.7%	104.0%	102.3%	104.5%

居 宅	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用者(人)	2,606	2,632	3,244	3,090
前年比(%)	99.3%	101.0%	123.3%	95.3%

訪問介護	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用者(人)	3,936	3,951	4,002	3,233
前年比(%)	90.8%	100.4%	101.3%	80.8%

○状況

・開明の杜: 嘱託医に相談しながら看護師を中心に健康管理は行っており、入院者の抑制となった。入院時も協力医療機関と連携して、早期の退院にも対応することで稼働率維持に努めた。退所後の空床にも迅速に対応できている。

・短期入所: ほぼ100%の稼働率で予定を組み、キャンセルが出た場合には他者に声を掛けるなど緊急での受け入れに迅速な対応を行った。複数の看取り介護にも対応し、ニーズに応えることができた。

・居宅陽だまり: 介護支援専門員が9名から8名に減。利用者数は制度改正で、総合・要支援の方の換算が(2:1⇒3:1)へ。その分が減少となり実数は前年とほぼ同様。職員1人当たりの件数としては、30.3名となっている。現状分析を行い、より地域から求められる事業所となり利用者数の増加を目指したい。

・ヘルパーステーション: 高齢の登録ヘルパーの退職、職員の家庭の事情、体調不良(怪我)があり、実働できる職員が少なく、思いうようなサービス提供ができなかった。

施設整備

・送迎車リース新規契約(1台) ・厨房機器(冷蔵庫、再加熱機) ・非常食(職員用) ・エアマット(2床) ・体位変換クッション(20) ・座面クッション(10) ・施設内共有サーバーバックアップ ・ストレッチャー ・居室天井換気扇取替工事 ・ユニット空調機修繕・送迎車修繕 ・松葉診療所業務用エアコン撤去 ・介護リフトバッテリー交換

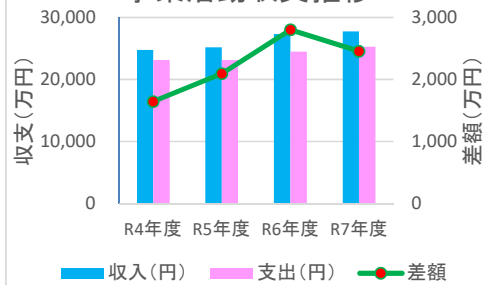
人材育成・研修

・老施協の研修会も全国大会をはじめ、各種研修に積極的に参加した。法人内研修も含め、各職員に合った研修を選んで参加するようにした。
・居宅陽だまりでは、必須のケアマネの更新研修を受講。また、ケアマネ1名が市民公開講座にパネリストとして参加。
・内部研修は、義務化の研修を中心に動画視聴も活用して実施した。
・生活相談員が全国老施協デイスサービス研修へ参加した。(全6回、東京都にて)

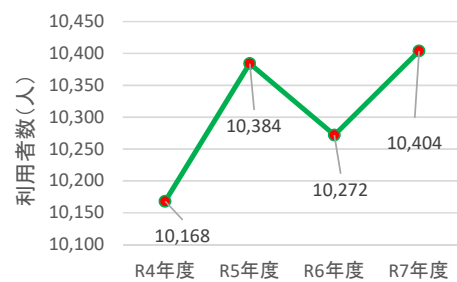
トピックス

・開明の杜の人員体制が厳しい状況。令和7年度の退職者は5名、派遣職員の契約終了1名、令和8年度は既に3名が退屈予定となっている。
・令和8年2月より食事が委託から自前提供へ変更した。
・令和8年3月で宿直を廃止した。

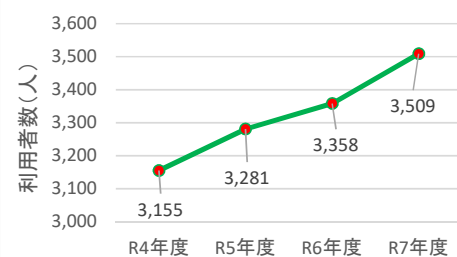
事業活動収支推移



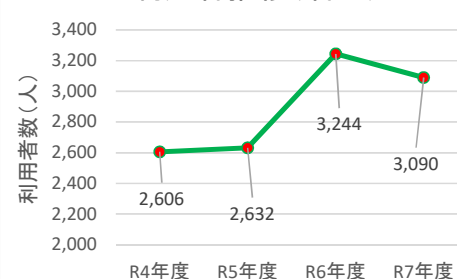
利用者推移(特養)



利用者推移(短期)



利用者推移(居宅)



利用者推移(訪問介護)



事業報告 : 皆楽園

事業活動収支推移

	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
収入(円)	336,019,190	336,901,174	338,609,179	340,131,278
支出(円)	320,812,765	307,595,563	325,075,202	311,280,775
差額	15,206,425	29,305,611	13,533,977	28,850,503

○状況

・特養: 今まで以上に高い稼働率になったことで収入増になり、安定した運営に繋がった。ただ、退職者もあり人件費が下がったものの、施設の老朽化で修繕が必要なものが多くなってきている状況。今年度も空調設備更新工事などの修繕や食事提供体制変更に伴う厨房機器の導入もあり、収支差額はそれほど大幅増にはならなかった。

・短期: ケアマネとの連携も図ったが、ロング利用の補充が思ったようにいかず、稼働率が伸びず、結果収入減に繋がってしまい、収支差額でも前年度比減となる苦しい運営となった。

・通所: 短期同様稼働率が下がったことによる収入減。支出は年度途中で職員が減ったことで前年度比減となったが、結果として昨年度に続く赤字となった。

利用者推移

特 養	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用者(人)	17,797	17,700	17,698	17,991
前年比(%)	99.0%	99.5%	100.0%	101.7%

短 期	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用者(人)	2,832	3,091	2,849	2,726
前年比(%)	110.3%	109.1%	92.2%	95.7%

通 所	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用者(人)	4,273	4,629	4,181	3,928
前年比(%)	103.3%	108.3%	90.3%	93.9%

○状況

・稼働率は特養98.6%、短期74.7%、通所70.2%であった。

・特養は入退所や入院数が前年度の半数程度に抑えることが出来たことで高い稼働率につながった。短期は地域ニーズの問題もあるが、一部のユニットでは新型コロナウイルスの影響もあり、ロング利用者が入所や入院退所になった際、スムーズに穴埋めすることが出来ず、稼働率が伸びなかった。通所についても、帯での利用者が入所、入院になった場合の補充がうまくいかず稼働率が下がった。

施設整備

- ・AEDリース契約変更
- ・共用部空調設備更新工事
- ・厨房洗浄機修繕
- ・厨房機器(再加熱機4台、業務用冷凍庫2種各1台)購入

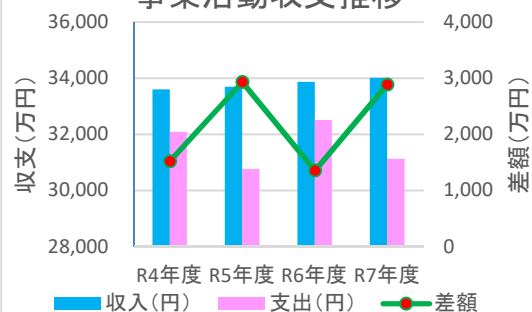
人材育成・研修

- ・老施協関係の研修を中心に可能な範囲で外部研修は参加した。
- ・施設内研修に関しては、必要な研修、訓練は実施した上で、動画視聴も活用しながら職員の負担に配慮しながら実施した。
- ・法人内研修、WJU関係の研修にも積極的に参加して経営感覚も磨くよう務めた。

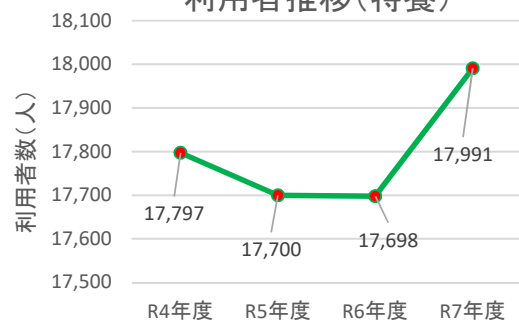
トピックス

- ・地域医療介護総合確保基金の補助金を活用し、経年により故障が絶えなかった共用部分の空調設備を更新した。
- ・塩害被害により、海側の駐車場フェンスが腐食、折れかかっているものがあり数本交換修繕を行う。今後も継続して修繕予定。
- ・ミャンマー特定技能実習生2名退職、3/31にインドネシア技能実習生3名来園され新年度から就業。

事業活動収支推移



利用者推移(特養)



利用者推移(短期)



利用者推移(通所)



事業報告 : あけはま荘

事業活動収支推移

	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
収入(円)	435,103,272	406,683,138	415,771,034	435,517,899
支出(円)	395,240,777	395,435,521	394,514,319	439,685,703
差額	39,862,495	11,247,617	21,256,715	△ 4,167,804

○状況

介護保険収入は、各事業の安定した高稼働により増収となった。支出では、特養の欠員により人件費が抑制された一方、大規模改修や厨房改革に伴う事務費が大幅に増加となった。改修を優先したため介護ロボット等の導入は最小限に留めたが、次年度以降、計画的に進める予定。物価・人件費の高騰による支出増は、増収分で概ね補完できた。なお、宿直業務の廃止に伴い宿直員3名が退職・異動したほか、正職員1名、パート1名、技能実習生4名が退職している。今後は施設設備整備を戦略的に行い、経営の安定化を図る。

施設・設備整備積立資産取崩: 85,000,000円

利用者推移

特 養	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用者(人)	29,727	30,062	29,304	30,472
前年比(%)	97.5%	101.1%	97.5%	104.0%

短 期	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用者(人)	1,549	1,369	1,766	1,434
前年比(%)	87.3%	88.4%	129.0%	81.2%

通 所	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用者(人)	3,996	2,558	2,700	3,019
前年比(%)	85.8%	64.0%	105.6%	111.8%

○状況

特養の稼働は概ね安定して推移したが、年間33名の入退所が発生し、退所が重なった際などの待機期間(空床日)の発生が課題となった。入院日数は延べ148日と比較的低水準に留まっている。短期入所は、多床室5床という環境下での調整難や、担当者不在時のマッチング不足により苦戦し稼働は78.6%。デイサービスは着実に新規利用者を獲得し、4月の稼働率49.8%から年度末には65.2%まで回復した。今後は、利用者が少ない曜日への誘導を図るため、自立支援や個別ニーズに特化したサービス展開を検討し、更なる稼働率向上を目指す。

施設整備

- ・床走行移動リフト4台更新(リース) ・複合機更新(リース)
- ・ビジネスホン更新(リース) ・介護用ベッド4台購入
- ・厨房改修 ・給湯用配管取替工事 ・消防用設備修繕
- ・大規模改修工事

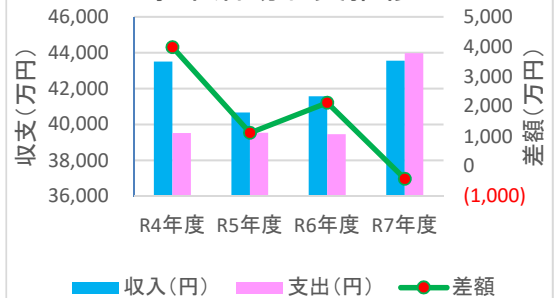
人材育成・研修

- ・外部への研修に参加。県内外へ32の研修に56名の職員が参加。
- ・法人内、事業所内の研修を計画的に実施。
- ・技能実習生等の入職時には、担当職員を配置し育成を行った。

トピックス

- ・歯科衛生士によるスクリーニングが開始
- ・明浜小学校5年生を対象とした福祉教室を実施。
- ・9月～1月末:旧館を中心に大規模改修を実施。
- ・9月:家族会開催。主に居住費負担、改修工事と食事提供方法を説明
- ・9月:避難訓練実施。炊き出し訓練、救命救急講習を実施。
- ・EPAインドネシア、フィリピンとのマッチングが成立。
(3名が令和8年12月入職予定)
- ・土砂災害警戒区域が見直され、施設全体が対象区域に入る。

事業活動収支推移



利用者推移(特養)



利用者推移(短期)



利用者推移(通所)



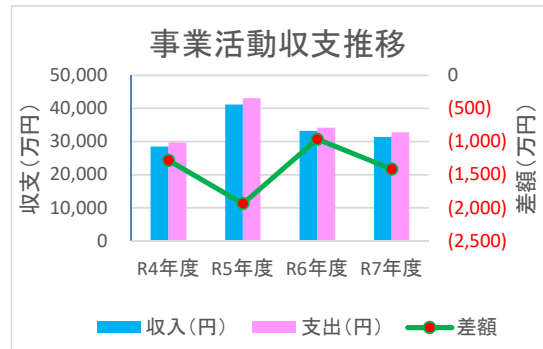
事業報告 : 宇和デイ

事業活動収支推移

	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
収入(円)	284,787,624	411,715,855	332,368,321	314,305,301
支出(円)	297,591,075	431,055,628	341,978,210	328,432,705
差額	△ 12,803,451	△ 19,339,773	△ 9,609,889	△ 14,127,404

○状況

慢性的な赤字経営が続いている事業所の人員配置の適正化を図り、令和8年度は福祉の里を除く全事業所において安定した運営が確保できる見込みである。福祉の里については、市民病院等医療機関と連携しながら、本来の役割を取り戻すとともに、安定した収益化を目指す。

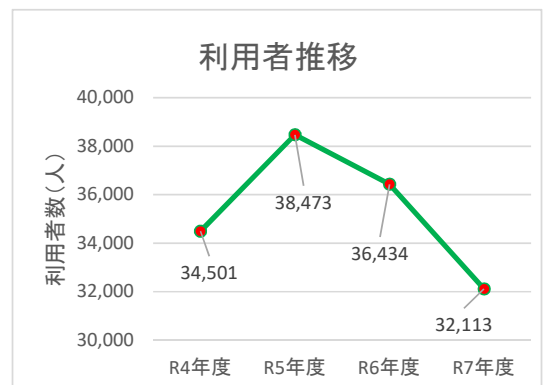


利用者推移

	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用者(人)	34,501	38,473	36,434	32,113
前年比(%)	-	111.5%	94.7%	88.1%

○状況

実績については、福祉の里を除いて、理想的な推移を辿っている。ななほしの通所介護事業は、実績が増加しているものの伸び率がいまひとつだったが、令和7年度の年度末からこれまでのサービスに対する信頼と実績が実を結び、利用定員までの利用申し込みがみられ、令和8年度以降は大いに期待できる。



事業所別 事業活動収支推移

福祉の里	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
収入(円)	85,038,169	78,536,789	64,749,672	62,784,212
支出(円)	94,379,842	82,463,710	64,973,527	79,967,237
差額	△ 9,341,673	△ 3,926,921	△ 223,855	△ 17,183,025

陽より	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
収入(円)	5,137,091	78,536,789	4,042,677	4,299,554
支出(円)	8,815,007	82,463,710	6,599,310	5,244,083
差額	△ 3,677,916	△ 3,926,921	△ 2,556,633	△ 944,529

ななほし中川	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
収入(円)	41,361,645	39,786,932	45,630,183	49,194,137
支出(円)	43,015,605	44,222,875	45,558,629	48,098,014
差額	△ 1,653,960	△ 4,435,943	71,554	1,096,123

うつのみやさんの家	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
収入(円)	39,114,969	38,478,313	39,980,927	40,920,254
支出(円)	35,261,470	35,632,467	37,263,091	38,969,319
差額	3,853,499	2,845,846	2,717,836	1,950,935

あんしんの家	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
収入(円)	46,581,659	40,257,766	44,868,982	51,090,558
支出(円)	43,901,735	42,170,434	47,663,191	52,314,332
差額	2,679,924	△ 1,912,668	△ 2,794,209	△ 1,223,774

歩(通所)	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
収入(円)	38,195,048	37,188,391	31,462,044	30,709,282
支出(円)	38,145,890	36,636,140	33,494,227	35,225,247
差額	49,158	552,251	△ 2,032,183	△ 4,515,965

歩(訪問看護)	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
収入(円)	29,359,043	28,015,918	26,064,910	
支出(円)	34,071,526	32,635,819	33,836,388	
差額	△ 4,712,483	△ 4,619,901	△ 7,771,478	0

蘭	R3年度	R5年度	R6年度	R7年度
収入(円)	-	70,914,957	75,568,926	79,606,858
支出(円)	-	74,830,473	72,589,847	73,858,616
差額	-	△ 3,915,516	2,979,079	5,748,242

事業報告 : 福祉の里 G

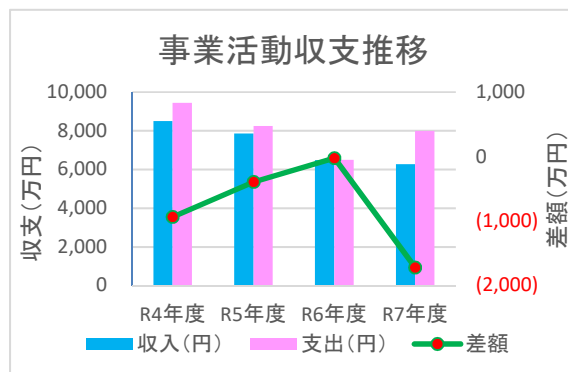
事業活動収支推移

	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
収入(円)	85,038,169	78,536,789	64,749,672	62,784,212
支出(円)	94,379,842	82,463,710	64,973,527	79,967,237
差額	△ 9,341,673	△ 3,926,921	△ 223,855	△ 17,183,025

○状況

収入58,484,658円に対し、人件費は60,286,984円となり、人件費率は103%と高水準である。令和8年度は介護職員を7名から5名へ削減したものの、常勤パート職員が正職員へ転換した影響により、人件費総額は大きく減少していない。

このため、人件費単価の上昇を主因として、人件費率の高止まりが継続している状況である。



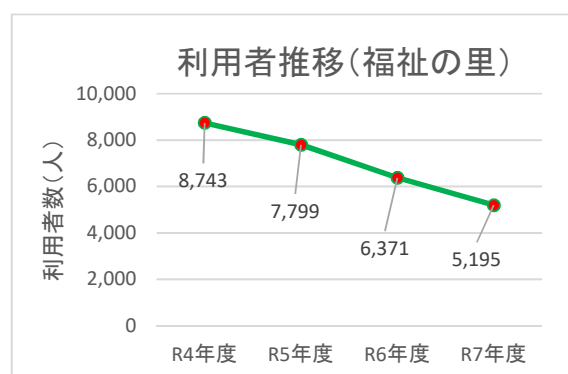
利用者推移

福祉の里	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用者(人)	8,743	7,799	6,371	5,195
前年比(%)	-	89.2%	81.7%	81.5%

陽より	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用者(人)	1,295	1,205	1,014	1,052
前年比(%)	-	93.1%	84.1%	103.7%

○状況

中重度高齢者の積極的な受入れやレスパイト機能の提供、高い専門性に基づく身体介護・療養管理・機能訓練といった強みを十分に発揮できず、ドミナント内競合との差別化や優位性の訴求が不十分であった。その結果、利用者数の低迷に歯止めをかけることができなかった。さらに、ウィークデイである金曜日の営業中止により顧客離れが生じ、マネジメント体制の再構築が課題となっている。これらを踏まえ、令和8年度は体制を刷新し、本来の役割を果たすべく、西予市民病院地域連携室との連携強化を図っていききたい。具体的には、退院指導の段階からのインテーク実施など、利用者確保に向けた施策に着手していく。



施設整備

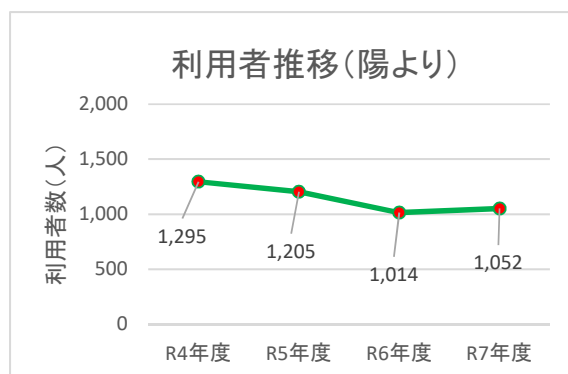
- ・送迎車両パワーリフト修繕
- ・静養室設置エアコン更新

人材育成・研修

- ・法人内各種研修
- ・新型コロナウイルス感染防止を目的にグループ全体会は控え施設毎の研修を実施。

トピックス

特になし



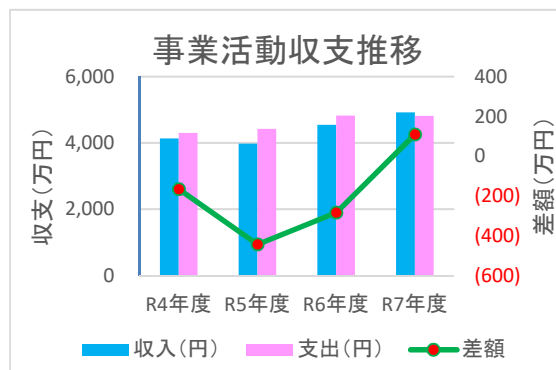
事業報告 : ななほし中川

事業活動収支推移

	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
収入(円)	41,361,645	39,786,932	45,401,660	49,194,137
支出(円)	43,015,605	44,222,875	48,241,853	48,098,014
差額	△ 1,653,960	△ 4,435,943	△ 2,840,193	1,096,123

○状況

時系列とともに実績増がみられるが、通所事業収入は同一スキームのあんしんの家の90%に留まっている。しかしながら、短期入所事業は好調を維持し、人件費抑制効果との相乗で黒字転換されている。次年度は、さらに実績の回復がみこまれ、安定経営が予想される。



利用者推移

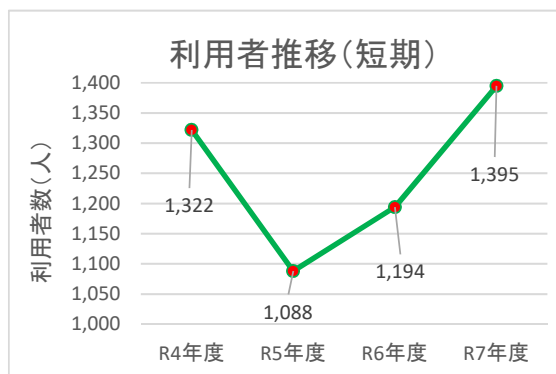
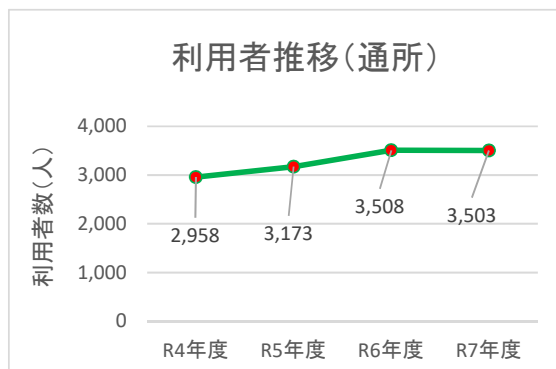
通 所	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用者(人)	2,958	3,173	3,508	3,503
前年比(%)	95.0%	91.2%	105.2%	99.9%

短 期	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用者(人)	1,322	1,088	1,194	1,395
前年比(%)	-	82.3%	109.7%	116.8%

○状況

通所介護事業においてあんしんの家との実績比較では劣ったものの、一昨年度以降は増加傾向を維持している。年度末以降は新規申込も増加しており、登録定員に近い水準まで回復しつつある。また、短期入所については顕著な改善が見られ、理想的な稼働水準に近い状況を実現している。

一方で、高いパート比率および新任職員が大半を占める人員構成であるが、管理者の運営マネジメントと、ドミナント内におけるステークホルダーとの良好な関係性および信頼関係の構築により、今後も実績は堅調に推移することが見込まれる。



施設整備

特になし

人材育成・研修

- ・法人内各種研修
- ・新型コロナウイルス感染防止を目的にグループ全体会は控え施設毎の研修を実施。

トピックス

特になし

事業報告 : うつのみやさんの家

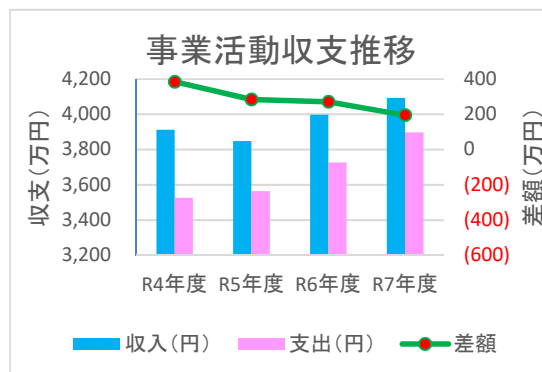
事業活動収支推移

	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
収入(円)	39,114,969	38,478,313	39,980,927	40,920,254
支出(円)	35,261,470	35,632,467	37,263,091	38,969,319
差額	3,853,499	2,845,846	2,717,836	1,950,935

○状況

人件費率は79.7%と高水準にあるが、日中は基本2名体制での運営としており、これ以上の人員削減は、有給休暇や病欠等による欠員時の対応困難や配置基準違反のリスクを高める要因となる。

以上を踏まえ、現行体制はコスト面での課題を内包しつつも、事業継続性およびコンプライアンスの観点から適正水準にあるものと判断する。



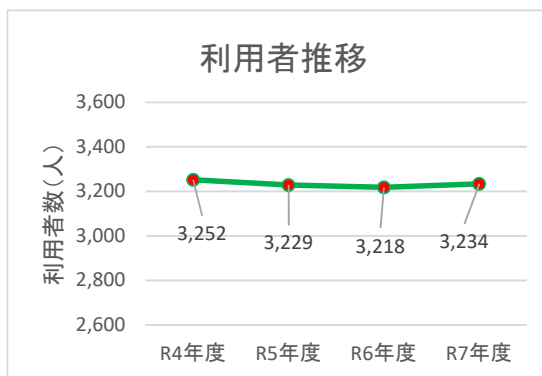
利用者推移

G H	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用者(人)	3,252	3,229	3,218	3,234
前年比(%)	-	99.3%	99.7%	100.5%

○状況

稼働率は98.5%理想的な状態を維持している。

上半期の入院者数の増加にも早期退院で対応し、下半期は安定した運営により入院者もなくほぼ100%で推移している。



施設整備

・リビングの空調更新。

人材育成・研修

・法人内各種研修
・新型コロナウイルス感染防止を目的にグループ全体会は控え施設毎の研修を実施。

トピックス

・特になし

事業報告 : あんしんの家

事業活動収支推移

	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
収入(円)	46,581,659	40,257,766	44,818,723	51,090,558
支出(円)	43,901,735	42,170,434	49,552,204	52,314,332
差額	2,679,924	△ 1,912,668	△ 4,733,481	△ 1,223,774

○状況

新型コロナウイルスの影響下にあった令和5年度において、管理体制の刷新を実施した結果、実績は回復基調から増加傾向へと転じている。一方で、ななほし中川との常勤換算による人員配置比較では同等以下であるにもかかわらず、人件費単価の著しい上昇により、人件費支出は上回る結果となった。

これは、パート職員比率の高さに加え、高水準の給与所得者の配置数が多いことが主な要因であり、収支に大きな影響を及ぼしている。

利用者推移

通 所	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用者(人)	3,812	3,477	3,658	3,892
前年比(%)	-	91.2%	105.2%	106.4%

短 期	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用者(人)	964	703	835	1,117
前年比(%)	-	72.9%	118.8%	133.8%

○状況

特別養護老人ホームをはじめとする入所施設における待機者数の減少および看取り介護の推進に伴う入退所回転率の向上により、通所事業を取り巻く環境は厳しさを増している。こうした状況の中、実績は増加傾向を維持しており、運営面においては高い水準を確保し、当該事業所の強みである短期入所とのパッケージ運用については、最大効率での稼働を実現している。一方で、パート職員比率の高さおよび職員の人件費単価に対する人員配置マネジメントについては、収支構造上の主要な課題となっている。

施設整備

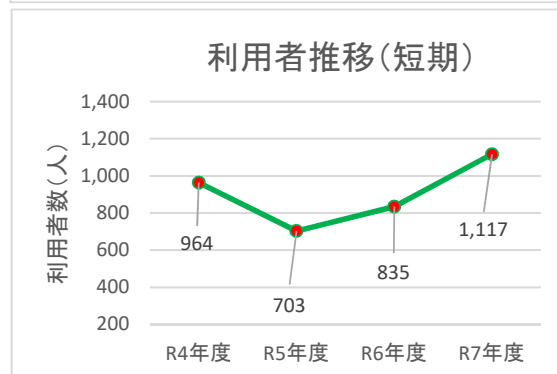
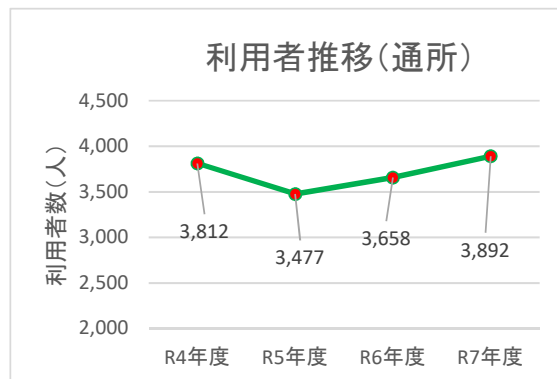
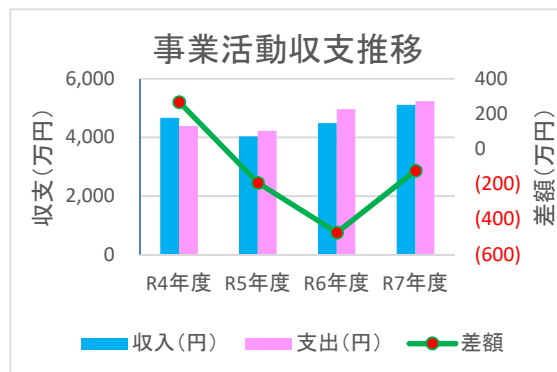
特になし

人材育成・研修

- ・法人内各種研修
- ・新型コロナウイルス感染防止を目的にグループ全体会は控え施設毎の研修を実施。

トピックス

特になし



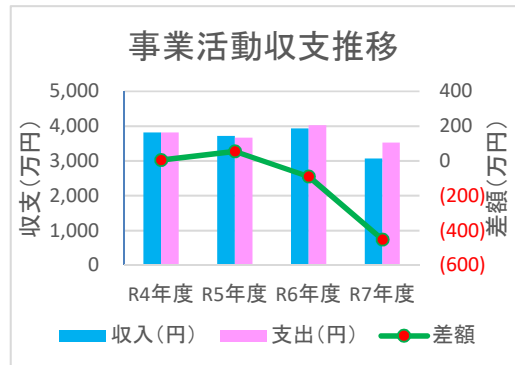
事業報告 : 歩

事業活動収支推移

	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
収入(円)	38,195,048	37,188,391	39,324,557	30,709,282
支出(円)	38,145,890	36,636,140	40,222,465	35,225,247
差額	49,158	552,251	△ 897,908	△ 4,515,965

○状況

福祉の里と同様に、通所介護においては人件費率が102%と、当初予算の段階で収支構造に課題があった。このため、定員20名における適正な人員配置について職員と協議のうえ、介護職員兼機能訓練指導員1名の減員を令和8年度より実施する。人件費の適正化を図り、令和8年度の黒字転換を目指すとともに、稼働率の向上により定員充足に向けた実績の積み上げを推進する。



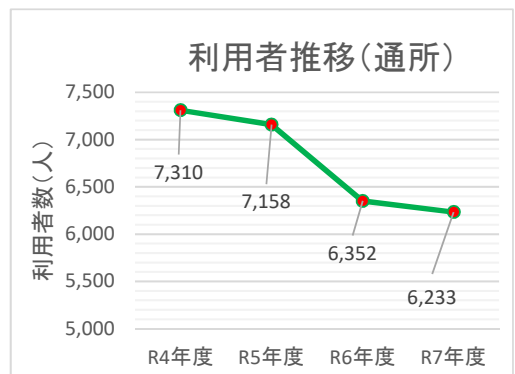
利用者推移

通 所	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用者(人)	7,310	7,158	6,352	6,233
前年比(%)	94.3%	97.9%	88.7%	98.1%

訪問看護	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用者(人)	4845	4593	4105	事業廃止
前年比(%)	-	94.8%	89.4%	-

○状況

当該事業の主軸である機能訓練機能は維持可能であるものの、送迎業務における人的リソース不足が顕在化している。陽よりと同様に黒字転換は達成しているが、副施設長および陽より配属運転手が3事業所の送迎を兼務することで成立しており、属人性の高い脆弱な運営体制となっている。持続可能な運営体制への移行に向け、送迎業務の再設計および人員配置の見直しについて迅速な対応が必要。

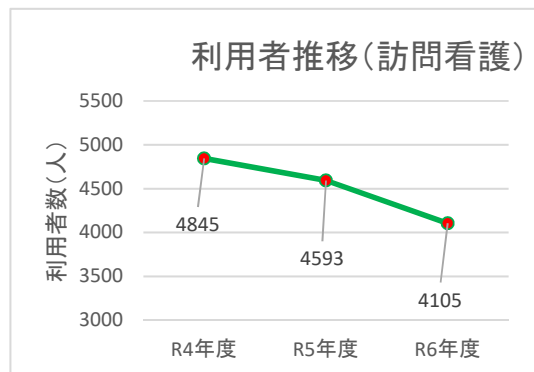


施設整備

特になし

人材育成・研修

日中の法人内研修は、内容について精査し、可能な範囲で参加するようにしているが、現状参加困難。施設内研修会は必要な内容を年間計画立てて、職員会と合わせて開催するようにしている。



トピックス

通所・看護ともに稼働が若干低下しているが、コロナ等感染症の罹患者を増やすことなく善処できている。支出を抑えることで、収入減以上のマイナス差額を抑えることができた。健全経営を目指すにあたり、訪看の稼働改善に何らかの対策を検討実施していく必要がある。新規受け入れの為、居宅などへ働きかけを行いつつ、業務の効率化を図っていく。

事業報告 : 蘭

事業活動収支推移

	R5年度	R6年度	R7年度	
収入(円)	70,914,957	75,568,926	79,606,858	
支出(円)	74,830,473	72,589,847	73,858,616	
差額	△ 3,915,516	2,979,079	5,748,242	

○状況

人件費率77.7%となった。

下半期、長期療養休暇や退職希望職員が3名と重なり、人件費を支出しながらも、人員は不足するという劣悪な状況が続いた。

今年度は適正な配置で安定した運営を目指したい。

長期借入金返済支出：2,000,000円

利用者推移

G H	R5年度	R6年度	R7年度	
利用者(人)	6,148	6,255	6,492	
前年比(%)	—	101.7%	103.8%	

○状況

稼働率は98.8%理想的な状態を維持している。

入院時には早期退院に対応し、入退所時にも身元引受人や転所先事業所などと計画的に調整を図りながら、効率的な実績確保を実現できている。

施設整備

・リビング空調の更新

人材育成・研修

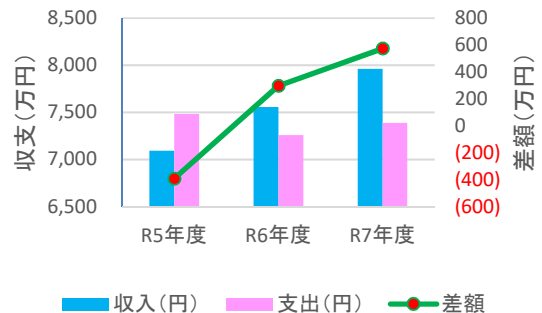
・法人内各種研修

・新型コロナウイルス感染防止を目的にグループ全体会は控え施設毎の研修を実施。

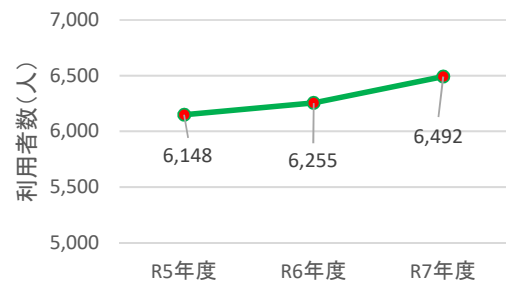
トピックス

令和5年4月より法人の施設として運営開始。

事業活動収支推移



利用者推移



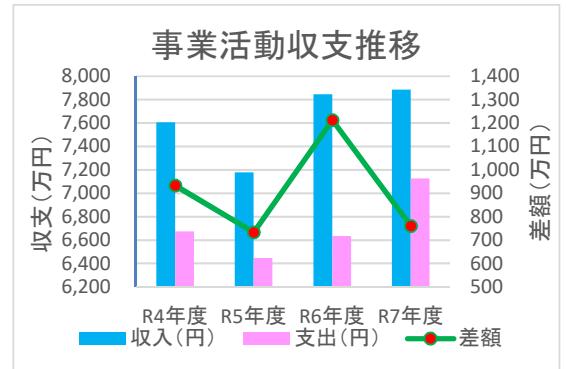
事業報告 : ケアハウスれんげ

事業活動収支推移

	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
収入(円)	76,044,625	71,784,746	78,455,225	78,844,666
支出(円)	66,719,857	64,454,359	66,335,133	71,247,413
差額	9,324,768	7,330,387	12,120,092	7,597,253

○状況

- ・原因: 年間を通じて入院があり空室期間、稼働率が96.9%と前年度とほぼ横ばいであった。
- ・退所は4名と昨年より少なかった。
- ・特定利用年間を通じ21～22名を維持し、一般は8～9名であった。
- ・特定の介護度は、要支援1、2が31%。要介護1が28%と割合が高くなっている。要介護4、5重度の方は3月末で4名在籍されている
- ・動向: 物価高騰により運営コストが上昇した。

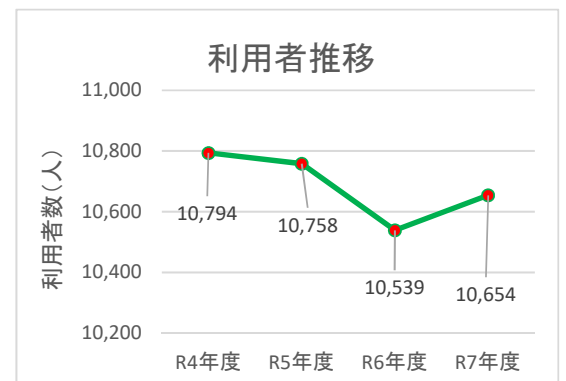


利用者推移

軽費	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用者(人)	10,794	10,758	10,539	10,654
前年比(%)	101.9%	99.7%	98.0%	101.1%

○状況

- ・年間の入院延日数が355日と前年度の41日と比較し増加した。退居者は4名と比較的少なく、退所から入居までの空室期間は38日間と前年度51日間より少なくなった一方で、1件当たりの平均空室期間が12.6日と長くなっている。
- ・待機者は、100名程度を維持している



施設整備

- ・LED工事
- ・居室化粧台入替
- ・居室エアコン入替

人材育成・研修

- ・認知症介護実践者研修受講
- ・四国老人福祉施設関係者研究大会に参加
- ・四国老人福祉施設協議会セミナーに参加
- ・内部職員会による研修

トピックス

- ・食事の提供を、委託から自前調理に変更。
- ・Wi-Fi工事及びICT機器導入。

事業報告 : ケアハウスはまゆう

事業活動収支推移

	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
収入(円)	70,851,417	69,989,086	67,545,422	69,123,725
支出(円)	64,956,701	63,194,437	63,981,135	66,504,937
差額	5,894,716	6,794,649	3,564,287	2,618,788

○状況

入院の長期化や入所調整の遅れにより稼働率96.9%となった。利用者の低介護度化で収入が伸び悩む一方、職員の高齢化に伴う人件費比率の増大や、物価高騰による支出増が経営を圧迫している。今年度は修繕等の投資を抑制して対応したが、収支改善に向けた抜本的な対策として、次年度より家賃や水道光熱費の設定を見直した。今後は運営コストの適正化を図り、安定した経営体制の構築に努める。

利用者推移

軽 費	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用者(人)	10,765	10,669	10,374	10,602
前年比(%)	100.5%	99.1%	97.2%	102.2%

○状況

年間の退所者は5名、入院者は9名と前年度より安定して推移したものの、一部で入院の長期化が見られた。今後は入院による欠床期間を最小限に留めるため、日頃のバイタルチェックや食事管理といった健康管理の徹底に努める。また、早期発見・早期対応の体制を整え、入居者の健康と稼働率の維持を図る。

施設整備

- ・エレベーター安全装置取替(特殊工事であり施工は令和8年度)
- ・ミールウォーマー

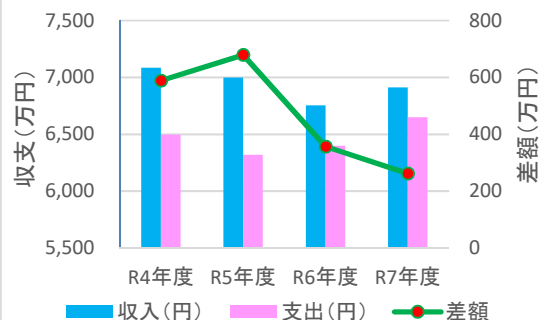
人材育成・研修

- ・OJTの推進
- ・内部職員会

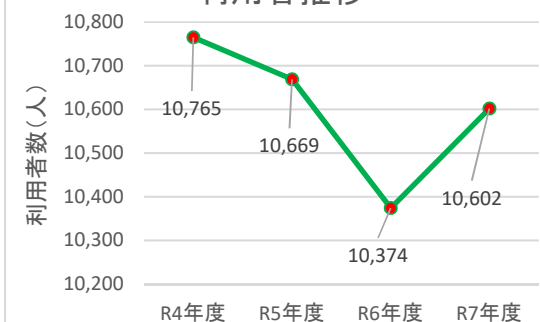
トピックス

- ・6月:南楽園の菖蒲祭に外出
- ・8月:愛媛県の実地指導
- ・末期がんの入居者、本人希望にて施設での看取りとなった。
- ・12月:令和8年度からの家賃と水道料金負担について説明会開催。

事業活動収支推移



利用者推移



事業報告 : 三楽園

事業活動収支推移

	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
収入(円)	132,391,983	136,481,943	130,154,041	166,732,423
支出(円)	129,701,555	135,048,166	356,965,688	152,205,798
差額	2,690,428	1,433,777	△ 226,811,647	14,526,625

○状況

収入:前年度と比較して約28.1%の増加となった。この主な要因として、4月より特定施設入居者生活介護を新たに開設したことが挙げられる。当該事業の開始により、新たな利用者の受け入れが可能となり、安定的なサービス提供に伴う収入の増加につながった。これにより、全体の収益構造が強化され、前年度比で大きな増収となった。

支出:前年度と比較して約57.4%の減少となった。この主な要因として、令和6年度園の新築に伴う多額の整備費用を計上していたことが挙げられる。令和7年度は当該新築費用のような一時的かつ大規模な支出が発生していないため、全体の支出額が大きく減少した。

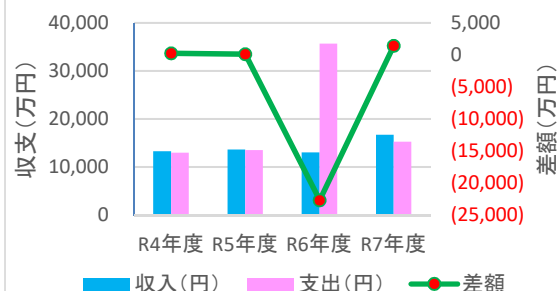
利用者推移

養 護	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用者(人)	17,239	17,127	17,528	17,272
前年比(%)	100.6%	99.4%	102.3%	98.5%

○状況

年間平均利用者数は前年度比▲3.8%、一般利用者28.7人(定員30名)、特定利用者18.6人(定員20名)、全体の稼働率は94.4%と目標値の達成とはならなかった。この要因としては、特定施設入居者生活介護の開設に伴う利用者構成の変化に加え、入居者の高齢化・重度化により入院者が増加し、空床期間が発生したことによるものと考えられる。

事業活動収支推移



利用者推移



施設整備

新設により特になし

人材育成・研修

- ・施設内研修:必須となっている研修会については、職員に講師を依頼し、双方が自己啓発ができる体制を作ったことにより、職員の参加に繋がった。
- ・施設外研修:県老施協が実施する専門的な技術、知識を習得するための研修に参加した。

トピックス

新設完成から1年が経過し、安定した運営基盤のもとで事業が定着している。開設当初に整備した環境を活かし、利用者の生活も個人のプライバシーが守られた環境の中で日常生活が遅れ、利用者からも満足の声が聴かれる。また、ケアの質の向上等に取り組み、年間の利用者の退所が2名であったことは大きな成果であり、高水準の稼働率を維持したともいえる。特定施設入居者生活介護の開始により、重度化する利用者ニーズへの対応体制が強化され、医療機関との連携も含めた支援体制の充実が図られている。これにより、入院対応等の課題はあるものの、利用者の状態に応じた適切なサービス提供にも努めることができた。今後も、安定した運営の継続とともに、利用者の安心・安全な生活環境の確保およびサービスの質の向上に努めていく。

事業報告 : 松葉学園

事業活動収支推移

	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
収入(円)	409,443,689	444,261,212	485,086,495	515,740,539
支出(円)	394,771,341	399,989,018	416,271,587	433,986,011
差額	14,672,348	44,272,194	68,814,908	81,754,528

○状況

加算の取得等により、全体的に経営は安定している。中でも、いっとき館(就労継続B型)は、就労移行支援体制加算を取得し、収入をあげることができた。一方、夢の家(グループホーム)は、職員の体制が確保できず、人員配置体制加算(Ⅰ)の取得ができなかったため、苦戦している。

人件費積立金 : 7,000,000円

施設・設備整備積立金 : 17,000,000円

利用者推移

入 所	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用者(人)	23,906	25,971	25,947	25,902
前年比(%)	92.4%	108.6%	99.9%	99.8%

夢の家	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用者(人)	13,203	14,043	14,236	14,274
前年比(%)	99.7%	106.4%	101.4%	100.3%

ぼのぼの	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用者(人)	4,887	6,322	7,333	6,852
前年比(%)	98.7%	129.4%	116.0%	93.4%

いっとき館	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用者(人)	7,603	7,917	7,396	7,814
前年比(%)	105.1%	104.1%	93.4%	105.7%

○状況

松葉学園施設入所では、長期入院もなく、利用者数は安定している。通所系サービス(松葉学園生活介護、いっとき館、ぼのぼの)においては、ほぼ定員を超えての受け入れを行っており、安定した経営につながっている。夢の家は、長期入院の利用者や、3月末に1名が高齢施設への異動で退所となったが、すぐに新たな利用者に入所してもらうことができた。

施設整備

松葉学園

- ・湿温蔵庫 ・厨房エアコン ・食堂エアコン2台
- ・ユニットエアコン修理 ・男性居室エアコン ・男性ユニット食洗器
- ・コンデンサ、リアクトル更新工事

ぼのぼの

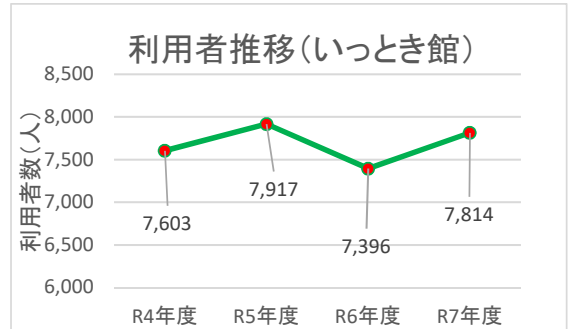
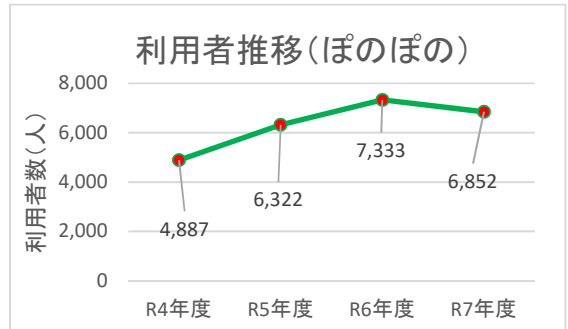
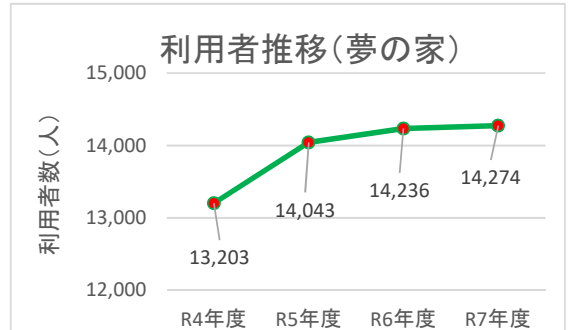
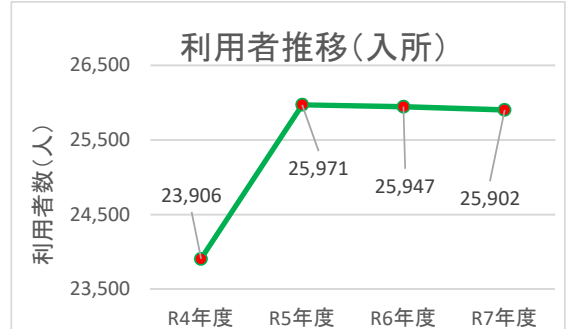
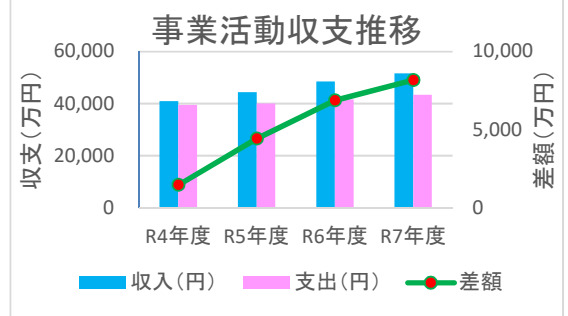
- ・手洗い場造設 ・Cルームエアコン1台 ・ガス給湯器

人材育成・研修

- ・強度行動障害研修や全国、中・四国及び県福祉協会、南予福祉施設会等で開催される研修に参加
- ・事業部や事業所内でのOJT関連研修実施
- ・施設内で、自閉症に関する研修会を年間を通じて実施
- ・障がい部門で、障がい福祉事業についての研修をコンサルタント会社より講師を招いて行い、障がい福祉の現状、制度について学び、今後の取り組みについて考え話し合いを深めることができた。

トピックス

- ・コロナで数年間実施できていなかった松葉学園入所利用者の旅行を、日帰りや一泊等希望に合わせ実施した。



事業報告 : 希望の森

事業活動収支推移

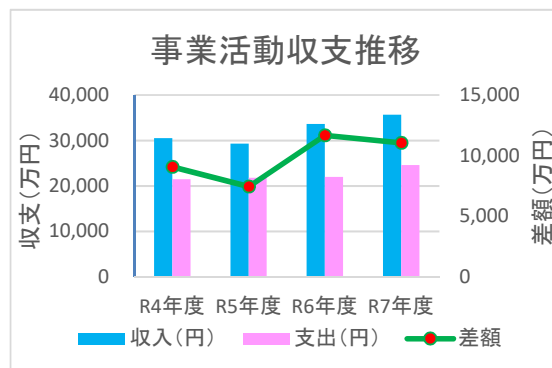
	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
収入(円)	305,121,422	292,595,452	336,315,922	356,480,578
支出(円)	214,422,824	218,063,420	219,581,118	245,897,228
差額	90,698,598	74,532,032	116,734,804	110,583,350

○状況

収入は、前年に比べると1,000万円を超えるプラスになっている。支出に関しては、前年に比べ増えている。理由としては、希望の森建て替えのための準備費用としてボーリング費用等が大きく増えたためである。

人件費積立金 : 3,000,000円

施設・設備整備積立金 : 100,000,000円

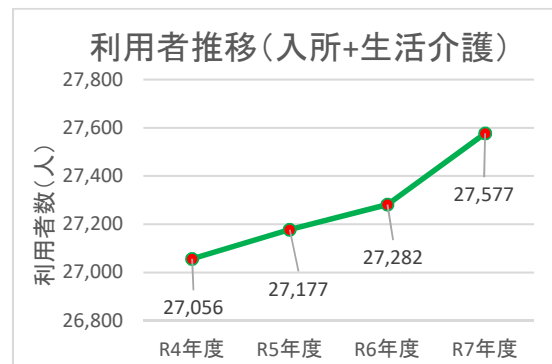


利用者推移

入所+生活介護	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用者(人)	27,056	27,177	27,282	27,577
前年比(%)	100.6%	100.4%	100.4%	101.1%

短期	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用者(人)	858	599	705	1,358
前年比(%)	103.9%	69.8%	117.7%	192.6%

日中一時	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用者(人)	276	541	668	677
前年比(%)	112.3%	196.0%	123.5%	101.3%

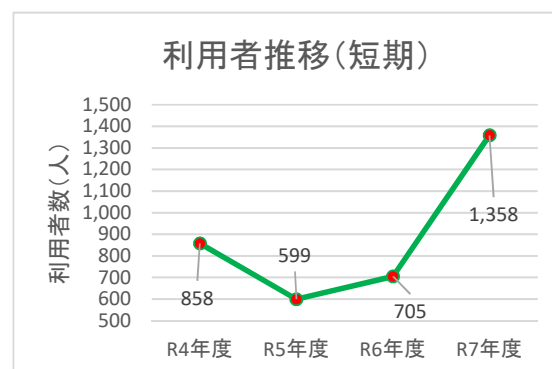


○状況

短期入所の稼働が、ほぼ倍増している。相談支援からの緊急の利用者が増えたことと、内部体制的に柔軟に対応ができるようになった結果と考える。入所も後半空床があったが、生活介護が増えていることで、人数的には例年通りをキープすることができている。

施設整備

- ・ポータブル電源(発電機)
- ・災害対応型自動販売機設置
- ・冷蔵庫
- ・冷凍庫

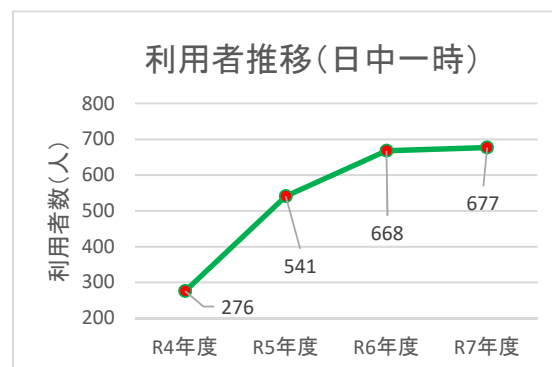


人材育成・研修

- ・日本知的障害者福祉協会関係研修(全国:各地域等)
- ・各法定研修
- ・法人内
- ・事業部内人材育成研修
- ・先進地視察

トピックス

希望の森の建て替えにむけて、社会福祉施設等施設整備費国庫補助申請中。



事業報告 : ひまわりの家

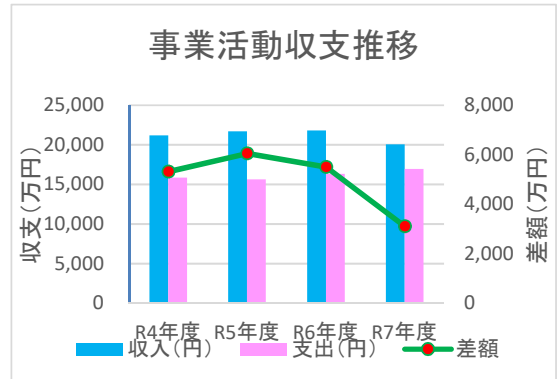
事業活動収支推移

	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
収入(円)	211,666,842	216,820,634	218,069,836	200,452,146
支出(円)	158,547,655	156,313,915	163,023,652	169,452,907
差額	53,119,187	60,506,719	55,046,184	30,999,239

○状況

養護・心理ともに暫定定員が更に1名減となり、事業活動増減差額のプラス幅が大きく減少した。例えば児童養護実人員減少で小規模グループケア加算が1ホーム加算不可となるなどで措置費収入減となった。一方で支出は増加しており、こちらもプラス幅減の要因となっている。諸物価高騰の影響もあるが、最大の理由は人件費支出の増である。前年度比約10%上昇でここ数年続く最低賃金改定による全職員の昇給(処遇改善)によるものである。

人件費積立金 : 26,400,000円



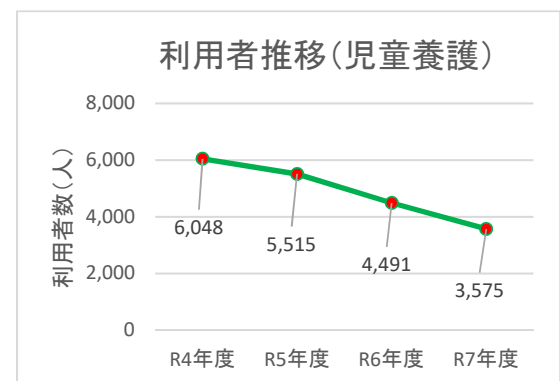
利用者推移

児童養護	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用者(人)	6,048	5,515	4,491	3,575
前年比(%)	101.7%	91.2%	81.4%	79.6%

児童心理	R3年度	R4年度	R5年度	R7年度
利用者(人)	2,360	1,618	2,168	2,241
前年比(%)	80.0%	68.6%	134.0%	103.4%

○状況

養護は定員20名に対し3月末日6名在籍から4月1日新規入所及び心理からの措置変更で8名のスタート。9月及び11月に各1名入所。年度末に高校生1名が専門学校進学で退所。小学生1名が児童心理へ措置変更となり、次年度は9名スタートで暫定定員14名(前年度1名減)。児童心理は定員10名に対し、7名のスタート。年度末は6名であったが、1名児童養護からの措置変更で入所。暫定定員は8名。国・県の施策としての里親委託推進により、措置児童の入所打診件数は減少。



施設整備

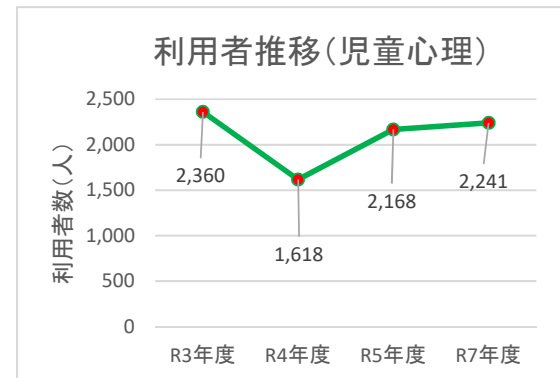
- ・24時間テレビ(日本テレビ)から、旅行券及び食事券の寄贈あり。
- ・防災対策として、ポータブル電源4台増設整備。
- ・チャイルドノート(児童用記録ソフト)をver3からver4へアップグレードした。

人材育成・研修

- ・前年度、福祉総合支援センター(中児相)心理士から、対人援助技法を学んだが、そのフォロー研修で今年度も養護男児のケアについてスーパーバイズを受けた。

トピックス

- ・施設内のPC共有サーバーを活用しての施設内記録、文書電子決裁は開始2年目。職員も手順に慣れ、電子決裁が定着。
- ・開設後初めての【養護】から【心理】への措置変更を何度も施設内で検討を重ね、該当児相に連絡。4月1日付で措置変更となる。
- ・措置施設ではあるが、WJU研修参加職員からの「困難ケースも受け入れる」「断らない」という意識が職場に浸透してきた。



事業報告 : うわまち未来こども園

事業活動収支推移

	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
収入(円)	191,835,771	181,481,976	189,522,772	193,768,869
支出(円)	154,730,739	150,518,414	166,152,548	160,033,958
差額	37,105,032	30,963,562	23,370,224	33,734,911

○状況

・収入においては未満児の途中入園があったが、家庭の都合での途中退園もあり伸び悩んだ。支出においては、職員の新規雇用や園庭整備・施設維持のための支出があった。

人件費積立金 : 6,000,000円

施設・設備整備積立金 : 10,000,000円

利用者推移

こども園	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用者(人)	1,896	1,780	1,733	1,556
前年比(%)	107.4%	93.9%	97.4%	89.8%

一時保育	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用者(人)	379	420	392	258
前年比(%)	107.1%	110.8%	93.3%	65.8%

学童保育	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用者(人)	439	470	480	469
前年比(%)	98.0%	107.1%	102.1%	97.7%

○状況

・出生数の減少に伴い、利用人数も減少傾向にある。低年齢児の途中入園があったが、退園児もあり全園児数は減少傾向にある。

・一時保育は、年度当初は利用者が少なかったが、知っていただくための工夫の成果もあり、下半期は徐々に増えたが1年を通して伸び悩んだ。

・学童保育: 下半期2～3名の退所があったが、入所希望はなく利用児童数は減少した。

施設整備

- ・土壌改良工事
- ・壁クロス張替工事
- ・シロアリ防除工事
- ・スピーネ設置工事
- ・木製ハウス新設工事

人材育成・研修

＜法人内研修＞

- ・OJT新人・新任研修
- ・創作部会
- ・園内研修

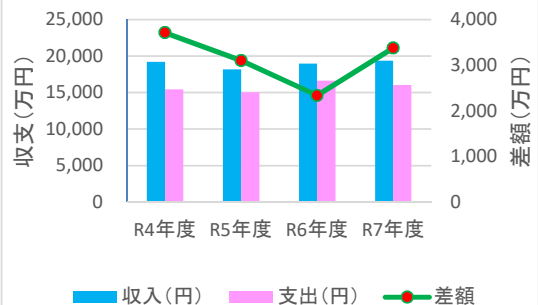
＜法人外研修＞

- ・西予市保育協議会研修会
- ・保育士キャリアアップ研修
- ・愛媛県教育・保育施設初級職員研修会
- ・全国教育・保育研究大会
- ・南予地区人権・同和教育研究協議会
- ・えひめこどもの食物アレルギーシンポジウム
- ・新居浜市誤嚥事故に関する特別講義 他

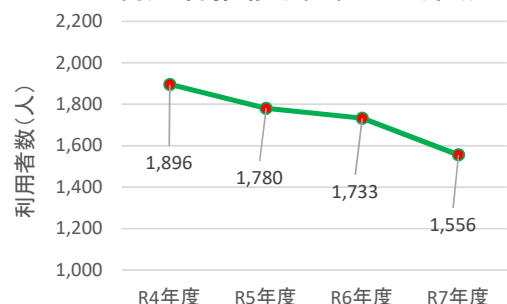
トピックス

- ・「一人ひとりが輝き生き抜く力を培う」の保育理念のもと、地域・友だち・様々な人との関わり、また、自然の中での遊びなど、豊かな経験を通して、大切な乳幼児期に様々な力が育つように保育をしている。
- ・週1回、隣の開明の杜のお年寄りとの交流をした。
- ・保育の質の向上の為、保育について話し合う機会を大切に捉え多く持ったり、研修等での学びの共有などを行った。
- ・園舎の維持のため、シロアリ防除工事を行う。また、こどもたちの身体つくりと園庭整備のため、遊具を新設し今後も引き続き整備を行う。

事業活動収支推移



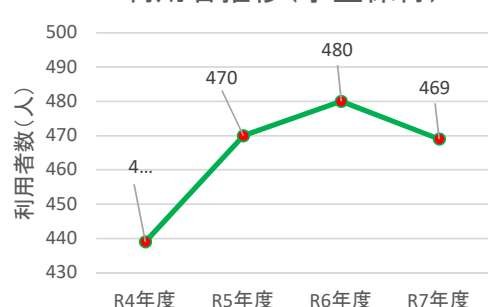
利用者推移(未来こども園)



利用者推移(一時保育)



利用者推移(学童保育)



事業報告 : 中川保育園

事業活動収支推移

	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
収入(円)	82,868,131	96,803,765	112,493,492	115,923,316
支出(円)	81,262,077	91,839,500	87,826,102	84,663,132
差額	1,606,054	4,964,265	24,667,390	31,260,184

○状況

保育園・学童共に定員を上回る利用で収益は安定し、委託費も増加している。人件費率は健全で、光熱水費や消耗品費の削減により経費効率も向上。人件費と施設整備の積立を行い、期末の資金も十分に確保されている。

人件費積立金 : 8,000,000円

施設・設備整備積立金 : 13,500,000円

利用者推移

保育園	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用者(人)	696	737	779	740
前年比(%)	85.4%	105.9%	105.7%	95.0%

学童保育	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用者(人)	473	463	470	512
前年比(%)	167.7%	97.9%	101.5%	108.9%

○状況

・保育園は、0歳児6名を含め22名の未満児を受け入れた。
・学童保育は、小学校敷地内にある為とても利用しやすい環境となり、特に1、2年生の利用が多く、増員に繋がっている。(中川小:30名・多田小:6名・石城小:7名)

施設整備

保育園

- ・防滴型ハイパワーアンプ
- ・土管トンネルの修繕

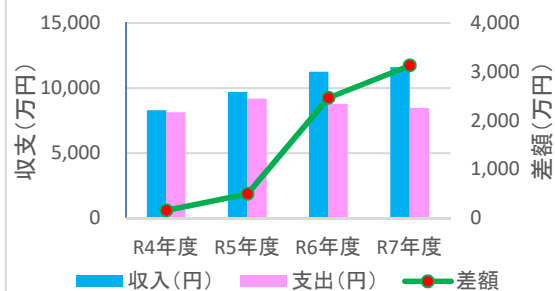
人材育成・研修

- ・キャリアアップ研修 ・愛媛県保育協議会研修会
- ・新人・新任職員研修会 ・OJT研修 ・部会研修(研修・創作)
- ・西予市保育協議会研修会
- ・南予地区人権同和教育研修会 ・県人権同和教育研究会
- ・園内研修(毎月)

トピックス

・お祭りごっこや地域文化祭へ参加し保護者や地域に喜ばれた。園外保育や食育など自然の中での体験を多く取り入れ、異年齢交流も進んでいる。学童保育は中川小敷地内の良好な環境で落ち着いて過ごし、子どもが楽しめる行事を工夫して実施した。
・令和8年度より多田保育園を分園として運営する。地域の保育ニーズに応じつつ、多田保育園と連携して取り組んでいく。

事業活動収支推移



利用者推移(保育園)



利用者推移(学童保育)



事業報告 : 田之筋保育園

事業活動収支推移

	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
収入(円)	73,372,457	73,026,582	85,224,983	87,876,620
支出(円)	59,025,233	58,330,718	68,388,756	67,320,408
差額	14,347,224	14,695,864	16,836,227	20,556,212

○状況

定員50名に対して、年度末には55名の園児数となった。年間を通して園児数が確保できているため、安定した運営ができた。

人件費積立金 : 13,000,000円

利用者推移

保育園	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用者(人)	605	607	593	594
前年比(%)	96.6%	100.3%	97.7%	100.2%

○状況

50名の定員に対して47名でスタートしたが、途中入園があり3月末には55名(内0歳児5名)となった。

施設整備

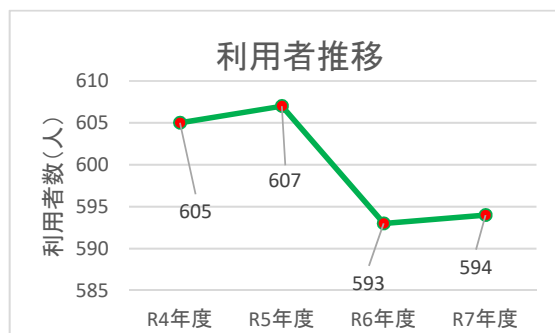
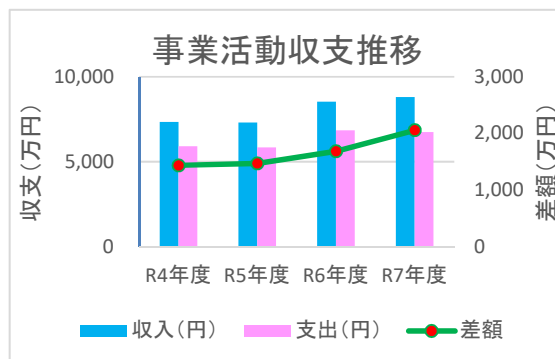
- ・足洗い場サーモスタット式シャワー水栓取替修繕
- ・園庭ログハウスの塗り替え
- ・砂場安全対策砂を増量
- ・エアコン取り付け工事
- ・2歳児保育室壁紙修繕
- ・土山修繕
- ・トイレ排水管詰まり修繕

人材育成・研修

- ・愛媛県保育協議会副主任、専門リーダー研修会
- ・四国地区人権研修会
- ・愛媛県保育事業研修大会
- ・主任保育士、主幹保育教諭研修会
- ・四国ブロック保育組織次世代リーダー研修会
- ・保育士等キャリアアップ研修会
- ・西予市保育協議会研修会
- ・法人内研修(WJU、人材育成等)
- ・園内研修

トピックス

- ・年間通して毎月50名前後の利用があり、定員の50名を維持している。今後数年は、大幅な減少はなく推移していくのではないかとと思われる。
- ・豊かな自然の中での体験や、異年齢児や地域の方などたくさんの人々との関わりの中で、こどもたちの健やかな成長を育んでいる。
- ・「たのすじっこ」と称し、地域の在宅支援事業を行い、在宅児やその保護者の支援を行っている。



事業報告 : 下宇和保育園

事業活動収支推移

	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
収入(円)	97,037,673	91,073,108	87,821,454	88,797,856
支出(円)	88,551,606	92,472,023	75,239,744	76,907,129
差額	8,486,067	△ 1,398,915	12,581,710	11,890,727

○状況

- ・定員50名に対し、4月は42名でスタートした。途中2名の入所があり44名にとどまった。
- ・下宇和: 保育室ベランダ人工芝張替工事、照明器具取替修繕、冷水器等施設整備による支出があった。

施設・設備整備積立: 8,300,000円

利用者推移

下宇和保育園	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用者(人)	457	474	586	516
前年比(%)	108.0%	103.7%	123.6%	88.4%

明間保育園	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用者(人)	153	97	0	0
前年比(%)	98.7%	63.4%	0.0%	0.0%

学童保育	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用者(人)	255	290	291	349
前年比(%)	76.8%	113.7%	100.3%	117.2%

○状況

- ・下宇和: 定員50名に対し年度当初42名。途中2名の入所があり、年度末は44名であった。地域外からの利用者が、13名あった。
- ・明間: 定員20名に対し申し込み者はおらず、昨年度より休園中。
- ・明下田: 定員40名に対し年度当初31名(皆田小26名・田之筋小5名)であったが、途中退会者もあり、年度末27名(皆田小24名・田之筋小3名)であった。田之筋小学校区児童が田之筋放課後こども教室を利用する状態が継続している。

施設整備

下宇和保育園

- ・保育室ベランダ人工芝張替工事・照明器具(LED)取替
- ・冷水器・園庭整備(真砂土補充)
- 明下田クラブ
- ・複合機

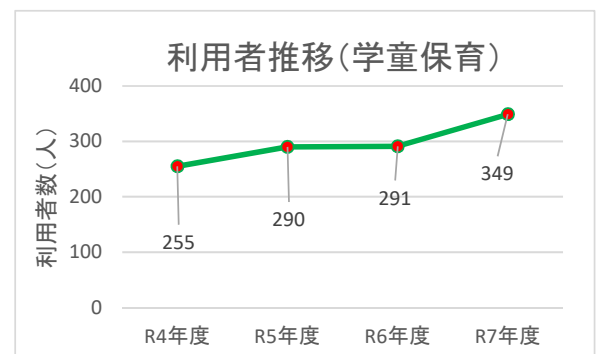
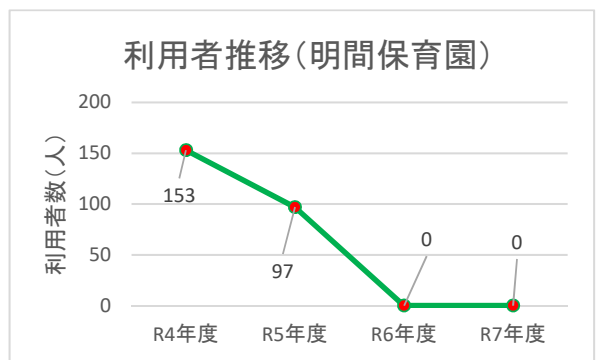
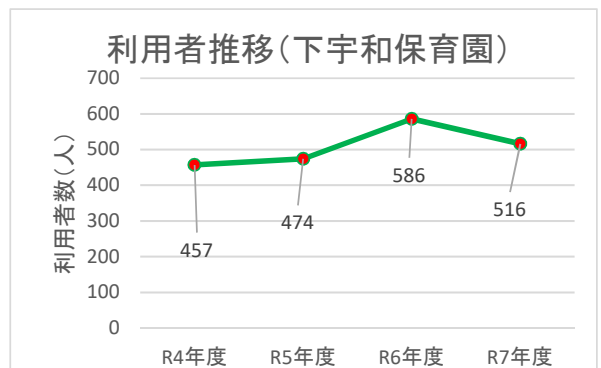
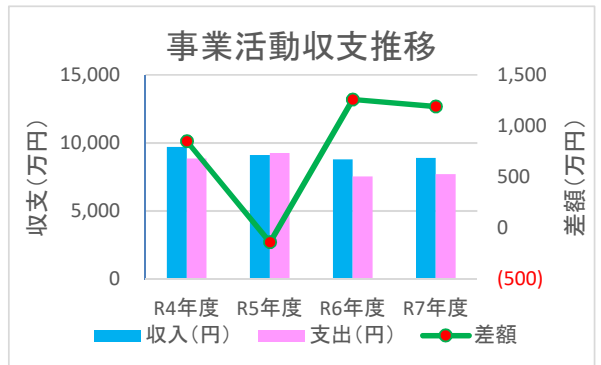
人材育成・研修

- ・キャリアアップ研修・創作部会・保育士会視察研修
- ・西予市保育協議会各研修会・愛媛県保育協議会各研修会
- ・ハラスメント研修・四国ブロック保育研究大会・SDGs研修会
- ・AEDでたすけ隊・心肺蘇生法講習・法人内研修・園内研修

トピックス

下宇和保育園

- ・令和8年度の定員は5名減の45名、37名でスタートする。
- ・明間保育園: 令和8年度の定員は20名、利用申込者がいなかったため令和8年度も休園。令和8年度の申し込み人数が定員に満たなかったため、令和8年度末で閉園となる。
- ・明下田クラブ: 令和8年度定員40名、19名でスタートするが、田之筋小学校区児童が田之筋放課後こども教室を利用するため、19名全員皆田小学校区児童(下宇和: 15名、明間: 4名)となる。



事業報告 : 宇和保育園

事業活動収支推移

	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
収入(円)	148,817,982	154,807,316	172,503,254	176,591,327
支出(円)	136,068,671	141,611,390	163,117,032	149,731,074
差額	12,749,311	13,195,926	9,386,222	26,860,253

○状況

120名定員:園児数の推移としては106名でスタートし途中入園7名を迎え、3月末で113名となったが、定員に届くことはなかった。施設整備や園庭整備等を行い支出があった。

人件費積立金 : 7,000,000円

施設・設備整備積立金 : 6,300,000円

利用者推移

保育園	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用者(人)	1,440	1,463	1,421	1,339
前年比(%)	97.9%	101.6%	97.1%	94.2%

一時保育	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用者(人)	443	166	374	356
前年比(%)	84.1%	37.5%	225.3%	95.2%

支援センター	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用者(人)	1,801	4,014	2,980	3,962
前年比(%)	85.4%	222.9%	74.2%	133.0%

学童保育	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用者(人)	475	440	500	507
前年比(%)	96.7%	92.6%	113.6%	101.4%

○状況

・一時保育は、4月から継続的に利用があり、支援センターが園内にあることからスムーズな利用へと繋がっている。
 ・子育て支援センターは、新しい行事の取り組みを行ったり、インスタグラムで様子を発信する事で利用者が増えている。
 ・学童保育については、年度途中の協議により、40名定員のところ45名の受け入れを行うこととし、1日平均の利用人数もアップし待機児童の削減に努めた。

施設整備

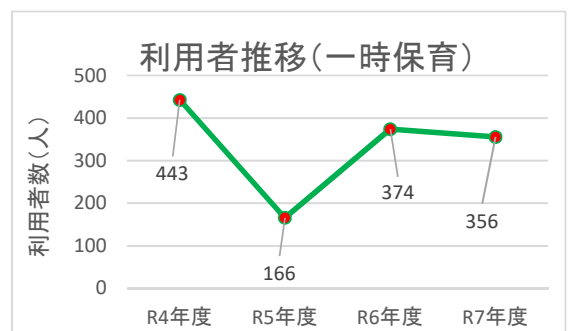
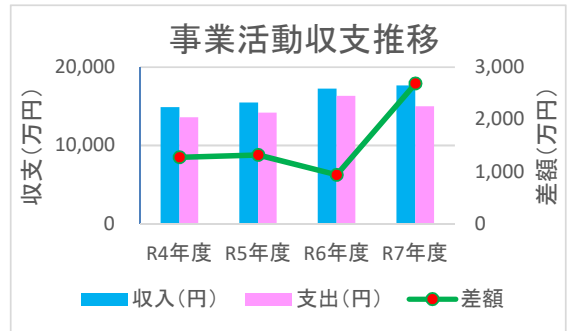
- ・園庭整備(土山・トンネル) ・廊下・園児保育室 床
- ・クロス張替工事 ・給食室トイレ洋式化工事
- ・組み立てパネル(ほふく室) ・エアコン(みかん組)
- ・木製ハウス屋根修繕 ・森の腰かけ(支援センター前)
- ・職員トイレ手洗い場修繕 ・子育て支援センター看板
- ・テラス雨漏り修繕

人材育成・研修

- ・法人内研修 ・保育協議会関係研修(愛媛県・西予市)
- ・保育士キャリアアップ研修 ・園内研修 ・全国保育士大会

トピックス

- ・宇和保育園では、保育の質の向上と、こどもたちをより良い環境の中で保育できるよう、園舎の修繕を継続的に実施し、園庭の整備についても、職員間で話し合いながら意見を取り入れて進めている。
- ・子育て支援センターの利用ニーズが高く、様々な行事やイベントを行っている。支援センターの看板を新しくする等、少しずつ環境整備にも取り組んでいる。
- ・保育士2名が育児休暇取得、1名が復帰となっている。



事業報告 : 石城保育園

事業活動収支推移

	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
収入(円)	62,524,294	54,811,360	55,844,385	48,597,988
支出(円)	55,865,281	46,805,196	51,873,765	44,330,079
差額	6,659,013	7,052,000	3,970,620	4,267,909

○状況

・利用定員を30名から20名に変更しスタートした。定員変更により、1名の途中入園児を受け入れその後は20名の園児数となる。

施設・設備整備積立資産積立: 7,500,000円

利用者推移

保育園	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用者(人)	517	382	373	239
前年比(%)	95.2%	73.9%	97.6%	64.1%

○状況

・園児は、ほぼ地区内であった。今後、園児数は減少する見込みである。分園についての説明会等も実施し、現在と変わらない保育の継続について理解をいただいた。併せて宇和保育園との保護者役員会を実施し、ご協力をお願いした。
・必要に応じた修繕等を行い園児や保護者が安心して利用していただく環境づくりに努めた。

施設整備

・剪定 ・下水道水漏工事 ・乳児室エアコン

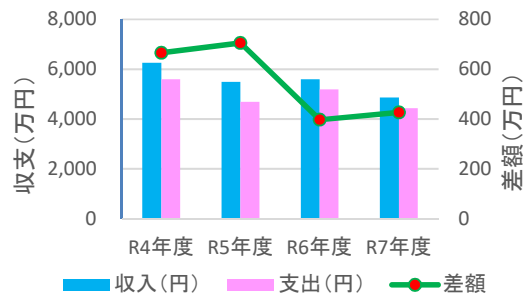
人材育成・研修

・キャリアアップ研修 ・創作部会 ・OJTリーダー研修会
・西予市保育協議会各研修会 ・愛媛県保育協議会各研修会
・全国保育士会研究大会 ・先進地視察検収 ・SDGs研修会
・南予地区人権同和教育研究協議会 ・防災に関する研修会
・愛媛県人権同和教育研究大会 ・安全研修 ・ハラスメント研修
・四国ブロック保育研究大会
・AEDでたすけ隊 ・心肺蘇生法講習

トピックス

・石城ロマンの里応援隊に来園していただき、一緒に防災訓練や炊き出しを実施し、地域ぐるみで活動することができていることに感謝している。また、活動センターの協力により、クリスマス会ではサンタ役を演じてもらい、お菓子のプレゼントをいただいたりした。園児数は減少傾向にあるが、老人施設との交流やいきいきサロンへの出張、子育てサロンの開催などますます地域との交流を図ると共に、地域の子育て支援に努めていきたい。

事業活動収支推移



利用者推移



事業報告 : 多田保育園

事業活動収支推移

	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
収入(円)	46,916,077	45,652,508	50,615,668	47,745,664
支出(円)	42,017,448	40,940,512	47,590,091	37,871,711
差額	4,898,629	4,711,996	3,025,577	9,873,953

○状況

利用定員が20名となり満員での運営が続いたことで収益基盤が安定した。費用面では人件費を適正に保ちつつ、物価上昇による支出増も無理なく吸収でき、全体として効率的で安定した運営を維持できている。

利用者推移

保育園	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用者(人)	292	325	309	226
前年比(%)	94.2%	94.2%	111.3%	73.1%

○状況

・18名でスタートし、9月に19名、1月に20名と年度末には定員に対して満員の利用となっている。
(0歳:1名・1歳:3名・2歳:1名・3歳:1名・4歳:6名・5歳:8名)

施設整備

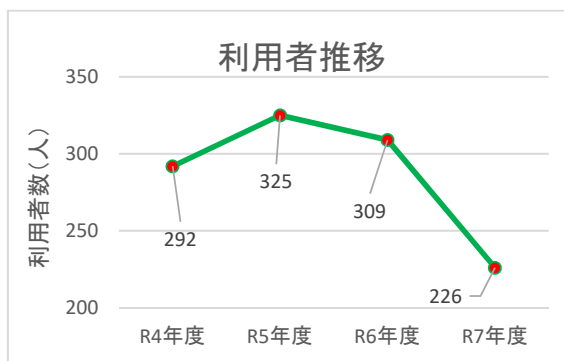
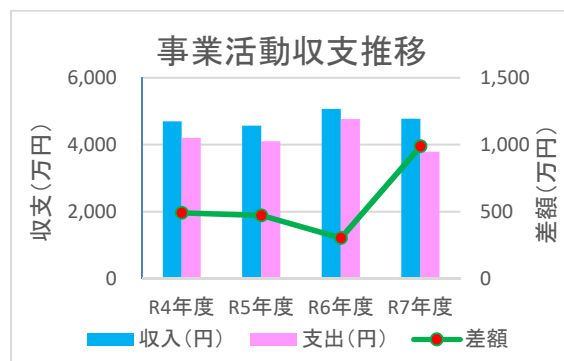
- ・砂場の木枠交換修理
- ・保育室畳替え

人材育成・研修

- ・キャリアアップ研修 ・愛媛県保育協議会研修会
- ・新人・新任職員研修会 ・OJT研修 ・部会研修(研修・創作)
- ・西予市保育協議会研修会
- ・南予地区人権同和教育研修会 ・県人権同和教育研究会
- ・園内研修(毎月)

トピックス

多田地区の自然の中での体験や、保護者・地域・他園との交流が充実を図るとともに、「だんだんプロジェクト」とも協力しながら多様な活動を行い、地域とのつながりを深めることができた。令和8年度からは中川保育園の分園として運営を開始し、園児数は11名、令和9年度は6名程度と見込まれており、財政面での厳しさが増している。地域の保育ニーズには可能な限り応じつつ、令和8年度は休園の選択肢も含めて検討を進めるとともに、必要な説明や受け皿確保のついて、中川本園と連携しながら進めていく。



事業報告 : 高山保育園

事業活動収支推移

	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
収入(円)	41,093,572	42,961,532	60,168,823	62,317,910
支出(円)	37,039,074	42,691,312	40,844,006	39,306,357
差額	4,054,498	270,220	19,324,817	23,011,553

○状況

令和6年度から認定こども園に移行し、収入は増加、経営は2年連続で安定している。しかし、令和7年度には5人が卒園し、園児数は減少傾向にあるため、今後、収入の減少が見込まれる。

人件費積立費用：12,000,000円

利用者推移

保育園	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用者(人)	179	178	134	152
前年比(%)	91.3%	99.4%	75.3%	113.4%

○状況

4月当初、園児は12名でスタート。その後、1名が途中入園し、年間トータルで152名、月平均12.6名となった。地域別では、田之浜が1名、高山・宮野浦が11名、俵津方が1名だった。令和7年度の明浜町の出生数は1名で、令和8年度の出生数は若干増加する見込みだが、田之浜・高山・宮野浦地区ではここ数年出生数0である。

施設整備

・木のベンチ購入

人材育成・研修

- ・法人内研修(WJU研修・人材育成研修・研修部会等)
- ・園内研修(防災・ハラスメント、感染症、AED、リスク、保育研修等)
- ・宇和町保育協議会研修会
- ・愛媛県保育協議会研修会
- ・キャリアアップ研修・保育会視察研修
- ・四国ブロック保育組織次世代リーダー研修会
- ・全国保育士研究大会(東京)

トピックス

・WJUの研修をとおして、高山保育園、西予総合福祉会の経営状況や今後について職員間で考える機会が増えている。また、県内外のさまざまな研修を受け、専門性を向上させている。

・令和7年度から、特に、年長児対象に俵津保育所との交流回数を増やし、少人数ではできない経験をすることができている。

・地域の子育てサロンと連携を取り、園の魅力を地域にアピールすることによって、少しずつ入園に繋がっている。

・令和7年7月、カムチャツカ半島で発生した地震による津波注意報を受け、保育園でも避難を実施した。この避難経験をもとに、避難場所の確認や持ち出し袋の見直し、マニュアルの改善を行った。その後も、地震や津波、土砂崩れなどの災害に関する情報収集を続け、防災意識を高めている。

